令和３年度

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務

報　告　書

令和４年３月

公益財団法人 兵庫丹波の森協会
丹波の森研究所

目　次

１　業務の目的および内容…… １

２　アドバイザー派遣地区…… ３

３　里山づくりアドバイザー報告…… ７

3-1　生郷里山づくり懇話会…… ７
3-2　平松区森林愛好会……18
3-3　北岡本自治会……24
3-4　特定非営利活動法人バイオマス丹波篠山……30
3-5　特定非営利活動法人バイオマスフォーラムたんば……36
3-6　下三井庄地区……39
3-7　ふるさと和田里山づくり協会……46
3-8　上板井自治会……53
3-9　八幡共有山組合……56
3-10　岩崎自治会……60

４　里山づくりアドバイザー会議報告…… 62

1　業務の目的および内容

(1) 業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

（2）業務内容

1）里山づくり協議会の設置

・選定された下表の里山づくり活動団体（以下、活動団体）については、里山づくりアドバイザー（以下、アドバイザー）の支援を受けながら持続的に活動が可能な体制になるよう、各活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下、協議会)」を設置する。

・協議会を構成するメンバーは活動団体、アドバイザーのほか、（公財）兵庫丹波の森協会丹波の森研究所、活動地所在市（丹波篠山市、丹波市）の担当課、丹波農林振興事務所等とし、（公財）兵庫丹波の森協会（丹波の森研究所）はコーディネーターとして協議会への助言、支援を行う。

・里山づくりアドバイザーを派遣している活動団体（10 団体）

団体名（応募順）			活動区域
平成31年度採択	1	生郷里山づくり懇話会	丹波市氷上町
	2	平松区森林愛好会	丹波市春日町
	3	北岡本自治会（30 年の森づくり協議会）	丹波市市島町
	4	NPO バイオマス丹波篠山（森の学び舎）	丹波篠山市
	5	NPO バイオマスフォーラムたんば（里山ごんげん）	丹波市氷上町
	6	下三井庄地区	丹波市春日町
令和元年度採択	7	上板井自治会	丹波篠山市上板井
	8	八幡共有山組合	丹波篠山市杉
	9	岩崎自治会	丹波篠山市岩崎
	10	ふるさと和田里山づくり協会	丹波市山南町

２）里山づくり協議会の設置

① 「里山づくり３０年計画」の策定

前年度の基礎調査内容の再確認を行い、それに基づき「里山づくり３０年計画」が策定されており、その計画に基づき、それを実現するための次年度以降のアクションプランを立てる。

「里山づくり３０年計画」とアクションプランの策定に当たっては、ワークショップ形式で策定作業を進め、参加者の意識共有ができるように支援するとともに、その内容を取りまとめる。

② 「里山づくり３０年計画」実現のための課題整理

協議会、現場活動等に参加して、活動における問題点（安全管理、必要機材や道具、人材育成、地域連携等）を把握する。

「里山づくり３０年計画」を推進するためのワークショップを実施し、現況および課題の整理を行い、その内容を取りまとめる。

③ とりまとめ

年度末に、今年度の活動を振り返って、今後の中長期の活動計画について考えるワークショップ（里山づくりアドバイザー会議）を開催し、その内容を取りまとめる。

２　アドバイザー派遣地区

（1）アドバイザー派遣地区の位置

(2) 里山づくり活動団体概要

・採択時のヒアリング内容を中心に里山づくり活動団体の概要を取りまとめた。

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点
生郷里山づくり懇話会	真鍋　宏行 丹波市氷上町 0795-82-2666	・活動対象エリアは、水分れ資料館周辺と小学校・幼稚園の裏山の２地区 ・ヒカゲツツジなどの希少種の群生地があり、シーズンには愛好家が相当数訪れるが、遊歩道整備は十分とは言えない状況 ・実績としては自治会の草刈り程度であり、活動組織づくりが今後の課題となっているようである	これから森林整備に取組もうとする段階であり、様々な面でのアドバイスが必要。 ヒカゲツツジなど植生保全。
平松区森林愛好会	伊藤　忠嘉 丹波市春日町 090-8829-3460	・林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受けている。交付金で機材等を備え、多面的な活動に取り組んでいる。要請を受け近隣集落へも応援に行っている。 ・月に 4～5 回の活動を行っている（非常に高い頻度） ・森林整備だけでなく、子ども達の森あそびや薪づくりなど多様な活動を継続して実施している。 ・薪やチップの販売も手掛けている。特に竹パウダーを土壌改良剤や肥料としての活用を試みている。	他地区の事例や森あそびへの助言 多様な森林整備を確認し、今後の方向性を整理 森あそびや資源の活用 竹パウダーを活用した商品開発（有機農法等での活用）
北岡本自治会	黒田　拓治 丹波市市島町 090-8829-3460	・これまでも自治会活動の一環として森林整備活動を実施しており、継続性については問題がない。 ・活動を通して森林の現況は把握しているが、整備のあり方については、アドバイザーの助言が必要。 ・活動対象エリアが 70ha（個人有 50ha）と広く、今後の活動を進めて行く上で、全体・年次計画が必要。 ・木の駅プロジェクトに参加 ・チェーンソー講習会の場として活用 ・今後は、自然観察会やレクリエーションを含め、楽しめる森づくりの方向も検討が望まれる。	参加者を広げる工夫が必要。 活動対象範囲が広く、林相に対応したゾーニング計画が必要 樹種更新など技術的サポートも必要

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点
バイオマス丹波篠山	高橋　隆治 篠山市垣屋 079-593-1150	・NPO 法人バイオマス丹波篠山が主体となって「森の学び舎プロジェクト」という里山利用（レクリエーションや体験活動）を図ろうとしている。 ・篠山市の公有地である ・「大路こどもの森」や「ささやまの森」のような活動拠点づくりを想定。	通常の里山整備とは若干異なるが、西紀運動公園との連携も可能であり、レクリエーション主体の森づくりも意味がある。
バイオマスフォーラム丹波	前川　哲和 丹波市氷上町 090-4291-9644	・子育て世代を応援する森あそび場を目指しており、現在の活動もそこに重点が置かれている。 ・NPO のメンバーが主体となっており、地域との連携は希薄である。 ・森林を場として、子どもを中心とした体験や環境学習を進めている。	環境学習や森のクラフト等のアドバイザーが適切。
下三井庄地区	細見勝 丹波市春日町 090-1146-8554	・自治会の林野委員会が主体となって活動している。 ・住民参加型森林整備事業や森林・山村多面的機能発揮対策交付金などの補助制度を活用している。 ・道路（林道？）沿いの森林が整備対象となっており、いわゆる里山林縁部だけでありやや違和感がある。 ・地域内には「大路こどもの森」があり、そこで活動している森林インストラクターも本会に活動参加している。	活動地について詳しく聞く必要があるが、活動については積極的である。 （活動団体内に森林インストラクターの山崎氏が参画している）
ふるさと和田里山づくり協会	村上　芳功 丹波市山南町 090-9048-4198	・岩尾城跡（石垣、堀、井戸など）、校山園（学校林）、小新屋観音、石金山（登山、瀬戸内海を眺望） ・森林の手入れ不足 ・登山道や公園の清掃等の維持管理に取り組む。 【目指す里山づくり】 ①歴史愛好家や登山愛好家が訪れる観光拠点 ②遊べる森林環境 ③登山道の維持管理 ・組織づくり（新規に和田里山づくり協会を立ち上げ、財産区の振興会と自治会長等で構成） ・活動継続のための取組	多くの関係者の意向を取りまとめる能力が必要 協会設立後、主要メンバーからヒアリング実施し、支援していく。

上板井自治会	明山　重則 丹波篠山市 079-593-0460	・自治会有林（広葉樹、一部人工林）、11 月～3 月活動 ・里山彩園事業（市）：シイタケづくり、薪など 【目指す里山づくり】 ①木の駅プロジェクト活用：搬出方法、機材等が課題 ②危険木の伐採・除去 ③里山づくりを通したまちづくり、世代間交流、女性参画の推進 ・木の駅プロジェクト活用の実効性を高める ・女性の参加促進や楽しんで参加できる仕組みづくりなど	今後の活動内容の明確化とともに里山活動を通したまちづくりや女性参画の仕組みづくり支援が必要。
八幡共有山組合	井上　邦夫 丹波篠山市 079-594-1315	・登山、ハイキング客が多い ・手入れ不足による森林の防災機能の低下が危惧される ・補助事業（住民参画型森林整備）：作業道整備、間伐等 【目指す里山づくり】 ①安全で楽しめる森林環境の維持管理（林業作業道の補修管理） ②登山などの環境整備：休憩スポット等の整備など ・森林学習会などの開催・組合員（権利者）による活動組織の立上げ ・安全な散策道（作業道）の維持管理 ・地域住民等への開放：ハイキングや学習会の開催など	活動内容の明確化（年間活動計画の作成）の支援や安全対策の支援が必要。また、楽しい森づくりのノウハウを紹介など。
岩崎自治会	酒井　克典 丹波篠山市 079-594-1559	・手つかず状態、人工林が多い（40～50 年生） ・マツタケ山（少ないがある） ・その他は広葉落葉樹林 ・自治会として若い世代も巻き込んで活動したい。 【目指す里山づくり】 ①隣接する集落と連携した森林経営計画の推進 （宇土～岩崎～谷山） ②四季を感じる里山づくり ③自治会及び新居住者とともに活動組織を立ち上げ ・組活動組織の立上げ ・広く参加者を引き入れ、 活動を継続するための仕掛けづくり ・砂防ダム整備に合わせた周辺環境整備の推進	将来に向けて隣接集落の連続する人工林を対象として森林経営計画の支援が望まれる。そのための支援も必要。 まずは、活動組織づくりや地域での活動内容の明確化を支援。

3　アドバイザー報告

3－1　生郷里山づくり懇話会

（1）生郷里山づくり懇話会の紹介

生郷地区は、本州内陸部で最も低い中央分水界通過点を擁する地区であり、郷土誌である『生郷村志』（1976 年）にも、水分れ、という地元での呼び名とともに、その特殊な地形や自然、里地里山の生きものの分布状況などについて関心を持って記録されている。しかしながら、その後、里山を管理する人が減少し、地区内の森林の手入れ不足を懸念する声が高まる中で、生郷里山づくり懇話会が新たに生まれ、新しい視点でこれからの生郷の里山づくりに取り組んでいます。

水分れ資料館

高谷川沿いの桜並木から水分れ資料館、水分れ公園のあたりについては、園路が整備され、気候の良い季節には小学校の遠足や親子連れで賑わう。しかしながら、周囲が防獣柵で囲われるなどしているためか、都市公園的な遊び場として活用されるのみで、周辺の里山に足を踏み入れる人は少ないことが、酒井会長らが挙げた課題である。また、千代田池は背後の里山と一体感のある優れた景観を形成しているが、池の土手にあがる人が少ないため、この景観を楽しむ人も多い。

広報たんば（2020．6）

1_地域のみなさんが整備した里山　2_竹や木を手作業で伐採　3_木材はリヤカーで運び出した　4_子どもたちも遊べる空間づくりをめざす　5_4月に水分れ茶屋がオープン　6_冷たい飲み物も販売中　7_手作りの遊具類

地域の森林をどう生かすか？

自分たちの住む地区にも、放置された森林がある…。困った時に、自治会や森林所有者に寄り添い、問題解決に向けてサポートする林業普及推進員という制度があります。林業普及推進員と一緒に、地域の里山整備に積極的に取り組む、生郷地区のみなさんに話を聞きました。

Interview

話：生郷自治振興会会長　酒井浩二さん、石生区自治会会長　山田康さん、林業普及推進員　荻野敏伸さん

地域に開かれた里山をめざして

（酒井）始まりは、水分れ資料館のリニューアルにあわせて、地域で資料館周辺の里山を整備したいと考えたことです。少しずつ里山づくりの構想を練っている時、平成31年に林業普及推進員の制度が始まり、生郷地区在住の普及員・荻野さんにもお手伝いいただくことになりました。

（山田）木の駅プロジェクトから講師を派遣してもらい、チェーンソーの講習を受けて資料館の裏山を整備しました。荻野さんには現場の作業を主導してもらい、木の活用についてもアドバイスをいただきました。

（荻野）作業場に車が入れる道がないので、切った木を運び出すのが大変でした。リヤカーで運べる長さに切って少しずつ運び出し、木の駅プロジェクトに出荷しました。

林業普及推進員になったのは、山林業普及員になりたいと思ったから。普及員に必要な1年間の講習を受けて、安全管理や木の利用について専門的に学びました。学んだことを少しでも伝えていけたらと思います。

（酒井）生郷地区は、第1段階として、水分れ資料館周辺の整備を行い、訪れた人に楽しんでもらいたいと思っています。4月からはカフェ「水分れ茶屋」もオープンしました。来年3月の資料館オープンにあわせて、里山の整備も完成させたいと思っています。第2段階として、資料館周辺だけでなく、生郷地区全体で災害に強い里山づくりをめざし、第3段階では、生郷地区を越えて、本州一低い中央分水界をアピールできるようなトレッキングコースを整備できればと考えています。

（山田）里山が子どもたちの活動の場になったら嬉しく思います。回覧板や防災無線などで活動への参加を呼びかけていますので、若い世代のみなさんもぜひ一度里山に入ってみてください。

（左から）酒井浩二さん、荻野敏伸さん、山田康さん

2020.6 たんば 6

（2）令和３年度の生郷里山づくり懇話会の活動実績

今年度、生郷里山づくり懇話会では、下記の一覧の通り活動を行い、アドバイザーとして会議および現地活動をサポートした。

① 令和３年度 生郷里山づくり懇話会 活動実績一覧

日 付	場所	内容
４月１日	生郷交流会館	第 24 回生郷里山づくり懇話会 定例会議 ・３月の活動報告 ・令和３年度の整備計画について
４月３日	千代田池左岸	森林整備活動 ・第１ビューポイント付近の整備
４月 18 日	千代田池左岸	森林整備活動 ・竹の片づけ（神社南側）、間伐木の皮剥きなど
５月１日	千代田池左岸	森林整備活動 ・里山散策路入り口付近の整備、枝葉処理など
５月 24 日	（生郷交流会館）	【中止】第 25 回生郷里山づくり懇話会 定例会議 ⇒新型コロナ緊急事態宣言延長のため、６日予定→24 日予定→中止
５月 29 日	千代田池左岸	森林整備活動 ・間伐材の皮むき、間伐材を用いた土留め工、竹の間引き他
６月８日	生郷交流会館	第 26 回生郷里山づくり懇話会 定例会議 ・活動進捗 ・６月以降の整備計画について
６月 26 日	千代田池左岸	森林整備活動 ・木道設置、溝きりなど
７月 10 日	千代田池左岸	森林整備活動 ・散策路の排水溝きり、シイタケのホダ木立てなど
７月 12 日	生郷交流会館	第 27 回生郷里山づくり懇話会 定例会議 ・活動進捗、7～8 月の活動予定について
７月 24 日	千代田池左岸	森林整備活動 ・水路周辺の枝葉除去、間伐材の製材、丸太橋づくりなど
８月７日	いそべ神社裏、東小裏	現地下見 ・今期後半整備地の下見

8月10日	生郷交流会館	第28回生郷里山づくり懇話会　定例会議 ・活動進捗、8月7日下見結果報告、8～9月の活動予定について
8月22日	千代田池左岸	森林整備活動 ・「千代田の小径」簡易看板設置など
9月4日	千代田池左岸	森林整備活動 ・間伐材の階段整備、雑草刈り、ウッドデッキ作製など
9月25日	千代田池左岸	森林整備活動 ・ウッドデッキ作製、雑草刈り、ウリハダカエデ植樹
10月1日	生郷交流会館	第29回生郷里山づくり懇話会　定例会議 ・活動進捗、10月の活動予定について
10月9日	千代田池左岸	森林整備活動 ・間伐材の製材、案内板づくりなど
10月23日	千代田池左岸	森林整備活動 ・第1ビューポイント周辺整備、里山花壇整備など
11月4日	生郷交流会館	第30回生郷里山づくり懇話会　定例会議 ・活動進捗、11月の活動予定について 特に、令和3年度住民参画型森林整備（東小裏山の森林整備活動の計画）について
11月6日	東小学校裏山	森林整備活動 ・ツル植物の除去、間伐など／住民参画型森林整備
11月28日	東小学校裏山	森林整備活動 ・擁壁付近の茨、ツル植物の除去など
12月2日	生郷交流会館	第31回生郷里山づくり懇話会　定例会議 ・活動進捗、12～1月の活動予定について
12月4日	東小学校裏山	森林整備活動 ・間伐、雑木処理など
12月12日	東小学校裏山	森林整備活動 ・擁壁付近の低木、茨、ツル植物の除去など
1月15日	東小学校裏山	森林整備活動 ・擁壁付近の低木、茨、ツル植物の除去など
1月30日	東小学校裏山	森林整備活動 ・登山道付近から擁壁の上にかけての低木除去など
2月5日	東小学校裏山	森林整備活動 ・1月30日活動による伐採木、枝葉の整理

２月７日	生郷交流会館	第 32 回生郷里山づくり懇話会　定例会議 ・活動進捗、2～3 月の活動予定について
２月 12 日	東小学校裏山	森林整備活動 ・学校西側の山で、小径木の伐採や階段の試作、桜の樹下のササ刈りなど
２月 23 日	東小学校裏山	森林整備活動 ・地域呼びかけ作業日、23 名参加。 ・小径木伐採、階段設置、ササ刈り、チップ化
２月 26 日	生郷交流会館	第 33 回生郷里山づくり懇話会　定例会議 ・活動進捗、３月の活動予定について ・令和４年度の活動について
３月６日	東小学校裏山	森林整備活動 ・伐採木・小径木・ササの整理 ・看板設置　など
３月 12 日	東小学校裏山	森林整備活動 ・小径木・ササの整理　など
３月 19 日	千代田池左岸	森林整備活動 ・シイタケの菌打ち
３月 23 日	東小学校裏山	住民参画型森林整備事業の現地立会い（丹波市・農林整備課）

② 令和３年度　生郷里山づくり懇話会　主な活動の写真

以下に、今年度に行われた主な現地活動の様子を写真で紹介する。

[4 月 3 日]　千代田池左岸の遊歩道整備。第 1 ビューポイントとしてベンチなどを整備した。

[5 月 29 日]　千代田池左岸にて、間伐材を用いて遊歩道を整備。階段や橋、縁取りに材を利用。

[5 月 29 日]　千代田池、水分れ資料館まわりで荒れた竹林を整備し、枯れ竹や伐採竹を整頓。

[5 月 29 日]　間伐材をチェーンソーで二つ割りにして、ベンチなどの材料に加工した。

[6 月 26 日]　遊歩道整備活動（千代田池左岸）ぬかるみなど足場の悪い箇所に木道を設置。

[6 月 26 日] 遊歩道整備活動（千代田池左岸）斜面の土留めや柵などに間伐材を利用。

[7 月 10 日]　千代田池左岸で、シイタケのホダ木の本伏せも行った。

[8 月 15 日]　千代田池左岸の遊歩道の増水状況。この後、排水の改善などの整備活動を実施。

[8 月 15 日]　千代田池左岸の遊歩道（竹林付近）も増水し、冠水した。

[8 月 15 日]　千代田池左岸の遊歩道の増水状況。

[9 月 4 日]千代田池左岸の遊歩道整備。

[9 月 4 日]　遊歩道整備と里山花壇の整備

[9 月 4 日]伐倒木を利用したウッドデッキづくり千代田池左岸の遊歩道にて。

[10 月 2 日]「千代田の小径」の間伐材看板

[10 月 9 日]　千代田池左岸の遊歩道に植栽したフジバカマにアサギマダラが初訪花。

[10 月 9 日]千代田池左岸におけるビューポイント整備。現地の間伐材を用いて、ベンチづくりなどを実施。

[10 月 9 日]　間伐材を用いた手づくりベンチ

[10 月 9 日]　間伐材を用いた手づくり看板

[10 月 13 日]スズメバチに抗するニホンミツバチ

[1 月 18 日]　ニホンミツバチとスズメバチ。

[10 月 23 日]　千代田池左岸のビューポイント整備活動の様子。

[10 月 23 日]　千代田池左岸の遊歩道沿いの里山花壇（山野草）の様子。

[11 月 6 日]東小学校裏の住民参加型森林整備活動。擁壁のツルや低木を伐採・除去。

[11 月 6 日]　東小学校裏の住民参加型森林整備活動。低木、ツルなどを伐採・除去。

[11 月 6 日]　東小学校裏の住民参加型森林整備活動。擁壁のツルや低木を伐採・除去。

[12 月 4 日]　東小学校裏の住民参加型森林整備活動。フェンス付近の低木やツルを伐採・除去。

千代田池左岸で竹林作業中のメンバーが撮影したニホンヒキガエル。池で卵塊も観察された。

[2 月 23 日]　東小学校裏の作業で、間伐した低木の枝葉をチッパー処理する様子。

[3 月 6 日]　東小学校裏の住民参加型森林整備活動の木製看板

[3 月 12 日]　東小学校裏の森林整備。間伐材を用いた土留め作業。

[3 月 19 日]　千代田池左岸でのシイタケの菌打ち作業風景。

[3 月 19 日]　千代田池左岸の活動地で発生した原木シイタケ

２．令和４年度の計画と課題

①　令和４年度当初の活動予定

令和３年2月２６日の懇話会会議にて、４月以降も、現地活動を月２回、会議を月１回程度開催することが決まった。

現地活動地は、引き続き千代田池左岸の遊歩道付近からいそべ神社奥のエリアと、東小学校裏山のエリアの二ヶ所で続ける予定である。

令和３年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、大々的な広報や集客は行わなかったが、住民参画型森林整備事業を実施した東小学校裏の事業地では、地区放送などで呼びかけ、新たな参加者を得て間伐などを行った。その結果、その後も継続的に参加する地域参加者を得た。令和４年度当初も、まだ丹波市内で新型コロナウイルスが収まったとは言い切れない状況のため、大々的な広報は行わずに活動を継続する方針である。

生郷里山づくり懇話会では、里山づくりでコアとなるコンセプトとして、３つの柱が掲げられている（下記）。このうち、〈1〉と〈3〉は懇話会がリードして実施している活動で、〈2〉は土木工事を含むハード事業の必要性から自治会や自治振興会がリードする活動として継続している。

（次々ページ図『氷上回廊と中央分水界の奇跡を楽しむ生郷の里山づくり』(一昨年度作成)参照）

【生郷地域の里山づくり　３つの柱】

〈1〉水分れ周辺の親しみやすい遊歩道・里山づくり

水分れ資料館・千代田池周辺を中心として、来館者が気軽に散策できる親しみやすい遊歩道・里山づくり

〈2〉災害に強い里山づくり

地元住民・自治会が中心となって取り組む、災害に強い里山づくり

〈3〉「中央分水界の径」を活かした多様な連携による里山づくり

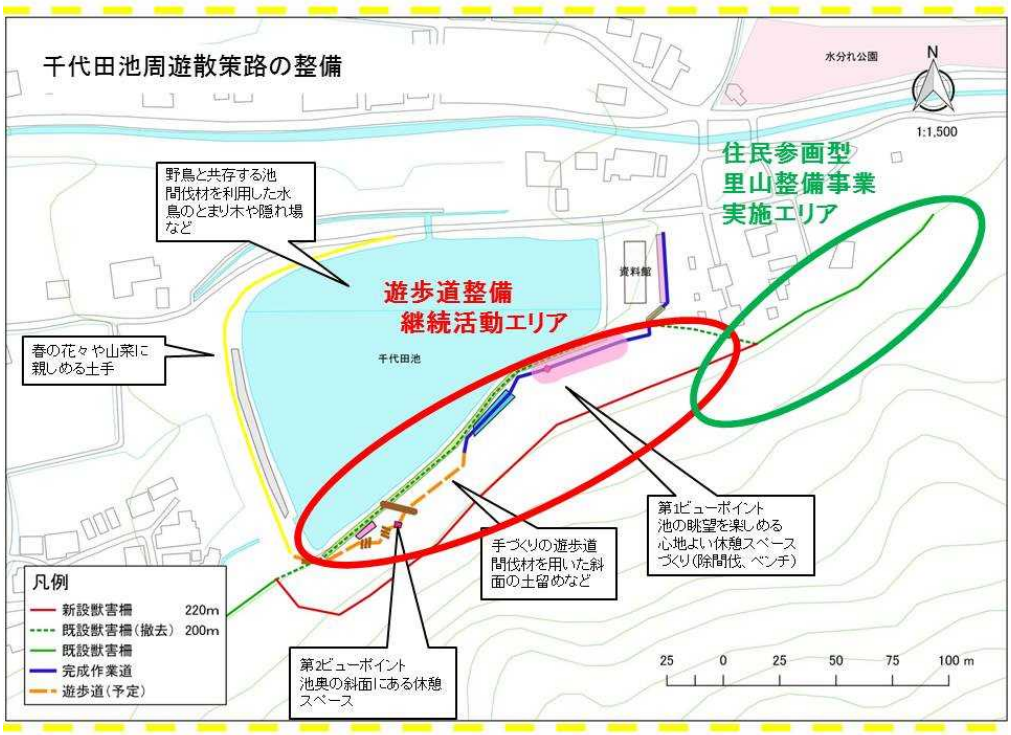
穴裏峠から栗柄峠までを結ぶ「中央分水界の径」沿いで、様々な里山活動団体や自治会、小学校などと連携し、「中央分水界の径」で繋がる多彩で楽しい里山をつくっていく、地域縦断型の里山づくり

②　現状と課題

昨年からの継続事業として、千代田池左岸では間伐材を用いた遊歩道づくりやビューポイントのベンチづくりなどを実施し、より充実した遊歩道となった。また、東小学校裏山では、学校隣接部分のツルや低木の除去によって景観性を改善し、遊歩道の補修も手掛けた。これらは、住民参画型里山整備事業など公的な助成事業を受けて得た森林作業道具類やチッパーなどの機械を使い、丹波市木の駅実行委員会など先行団体の協力も得て安全な実施につとめることができた。月２回程度の森林作業を維持したことで、コアメンバーの技量も向上し、よりスムーズに活動できるようになっている。

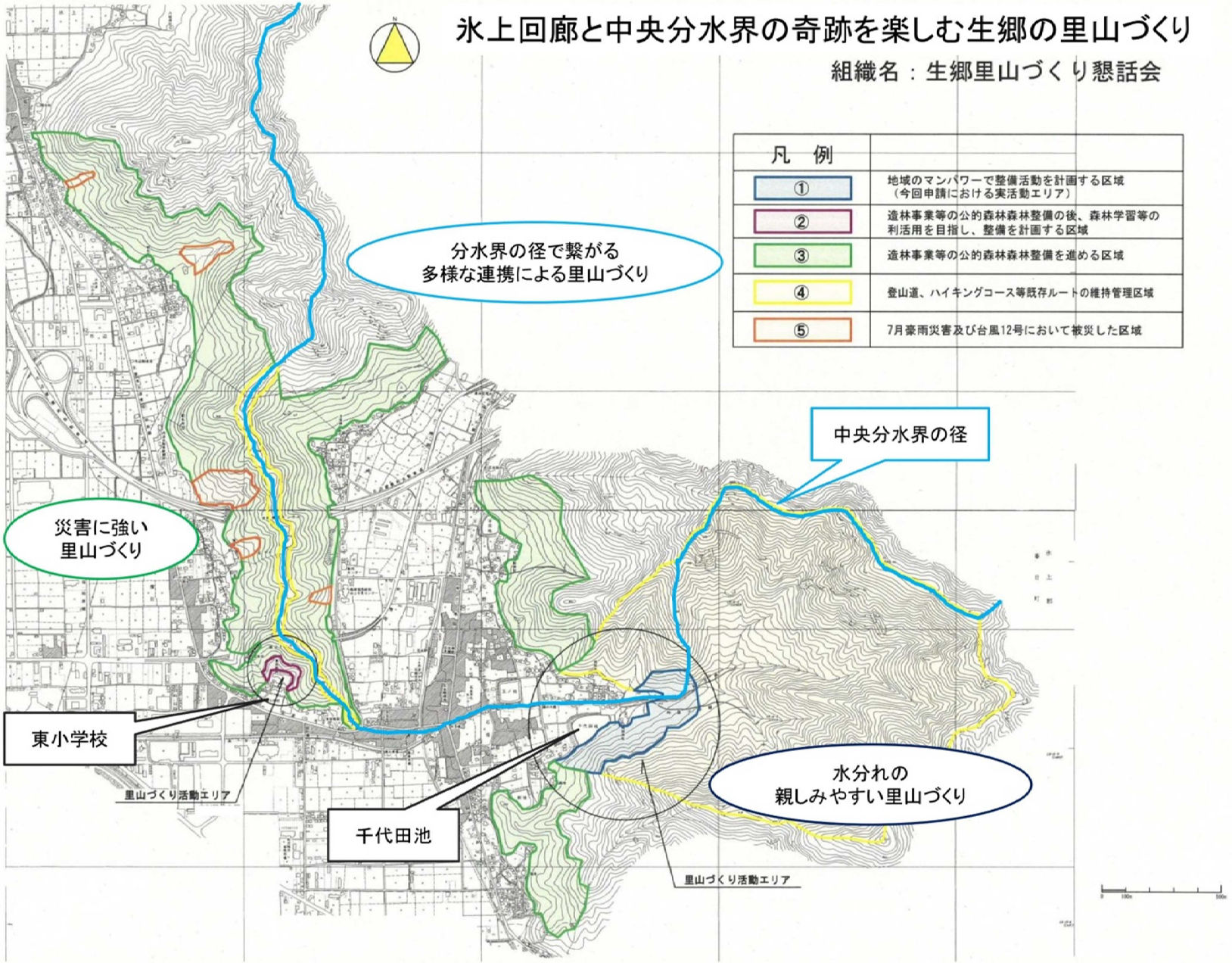
課題としては、２年続きの新型コロナウイルスの市中感染の広がりで、懇話会の発足当初に構想していた「多様な参加者を募る」ことを自粛せざるをえないことで、特に小学生との交流や、博物館来館者との交流を抑制が続く中で、活動のアウトプットが難しいことである。

生郷里山づくり懇話会は様々な経験者をメンバーに抱えており、森林作業の経験値も積みつつあるので、かなり自律的に活動を軌道に乗せつつある。今後のアドバイザーの役割は、懇話会の希望に沿いつつ、新型コロナ下でも応用可能な好事例の情報提供や、中長期の里山づくりの視点でアドバイスを続けることであろう。



氷上回廊と中央分水界の奇跡を楽しむ生郷の里山づくり

組織名：生郷里山づくり懇話会



3－2　平松区森林愛好会

（1）平松区森林愛好会の紹介

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受けている。交付金で機材等を備え、多面的な活動に取り組んでいます。要請を受ければ近隣集落へも応援に行っています。

森林活動は、月に 4～5 回の活動を行っています。森林整備だけでなく、子ども達の森あそびや薪づくりなど多様な活動を継続して実施しています。

薪やチップの販売も手掛けています。薪は都市部のピザ屋さんに定期的に販売しています。

間伐材でコンポストを製作（丹波新聞 2022 年３月 17 日）

間伐材でコンポスト

春日町平松区森林愛好会　「キエたん」受注開始

「キエーロ」改良し製品化

間伐材を使った木製コンポスト「キエたん」を商品化した平松区森林愛好会のメンバーら＝春日町平松で

春日町平松区を拠点に活動する「平松区森林愛好会」が、木製生ごみ処理コンポストを、4月から本格的に受注製作できるよう、準備を進めている。同会が区内の山などで間伐したヒノキを使用し、丹波市発の商品「キエたん」として販売する。伊藤忠嘉会長（76）＝同町平松＝は「丹波市の課題になっているごみ減量に貢献でき、森林の資源活用や保全にもつながる。SDGsの実践として、『キエたん』を普及していきたい」と話している。（古西　純）

土の中の微生物の力で生ごみを分解するコンポスト。通気性が良いため、臭いがなく、虫も来ないことが特長。もとは「キエーロ」の名称で、全国各地で導入実績がある。

「キエたん」は、同会が間伐したヒノキを、市内の製材業者で規格板に加工してもらい、防腐加工を施して組み立てる。白木に薄緑色の塗料がかかった色調で、見た目にもこだわったデザインに仕上げた。

3－5人家族を想定した「標準」と、「小型」の2サイズ。地面にじかに置く「底なし」と、ベランダなどに置く「底あり」の2種類ある。大きさは、標準底なしタイプで幅1㍍、奥行き60㌢、本体高さ60㌢。底ありタイプは高さが15㌢上がる。

価格は、標準底なしタイプで税込み1万804円。標準底ありタイプで税込み2万20円。市は新年度当初予算案に、ごみ減量化対策の1つとして、購入費の2分の1を補助する事業を盛り込んでいる（上限1万円、丹波市在住者対象。4月1日以降に購入した物に限る）。

商品化に向けては、キエーロを普及させようと情報発信してきた大地亜紀さん（45）＝山南町和田＝夫妻、瀧加奈子さん（44）＝同町坂尻＝らも協力。モニターへのアンケートなども行い、参考にした。

キエーロは自作も可能だが、「この価格で同じ品質のものは手に入れられない」と伊藤さん。「自宅でも使っているが、出すごみが半減した。こんなに重宝なものはないと思っている。環境問題のことを思っている人に『キエたん』を使ってもらえたら最高」と話す。

ごみ減量と森林保全　4月3日に体験会

同会は4月3日午前10時半から、丹波市市民プラザ（丹波ゆめタウン2階）で「キエたん」の体験会を開催。使い方や、メリット・デメリットなどを紹介する。終了後、購入依頼も受け付ける。定員30人に達していない場合は当日参加も可。参加無料。申し込みは共催の丹波市環境課（0795・82・1290）。

（2）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2021 年 7月6日 ～	春日住民センター 協議	伊藤会長 アドバイザー	**ドングリの森づくりを進める団体の受け入れ** ・ドングリから森づくりを進める「兵庫ドングリ千年の森をつくる会」の活動地として、平松区の里山を提供する。 ・愛好会としては、地域の人たちに里山づくり活動や都市部の人たちの交流を図る良い機会ととらえている。 ・昨年より考えていた他の森づくり活動団体とのコラボレーションによる、これまでのノウハウを伝えるような事業が進められると思う。 **調整** ・年内に活動地（植栽地）の選定、地拵え等のスケジュール調整を行う。
12 月 19 日	平松区活動地現地視察	伊藤会長 愛好会メンバー アドバイザー	**ドングリの森づくり活動地見学と注意事項の確認** ・多人数での植樹活動の注意事項 区分け、安全確保、植え付け講習など ドングリ苗の植栽地（除伐後）
2022 年 1月22日	平松区 ドングリの森活動地	伊藤会長 愛好会メンバー ドングリの会 アドバイザー	**ドングリの森活動地の地拵え** 伐採木の搬出
3月19日	平松区 公民館	伊藤会長 愛好会メンバー ドングリの会 アドバイザー	**４月 10 日の活動の調整会議** ・コロナ禍のため中止 ・４月 10 日の直前までに開催予定

3　活動写真

【ドングリの森づくり活動地／12 月 19 日】

ドングリの森づくり活動地現況

視察メンバー

シイタケ栽培（販売している）

地域見学

意見交換会

地域見学

【ドングリの森づくり活動地地拵え／1 月 22 日】

伐採木の片づけ

小枝などをチッパーで粉砕

林内作業車での搬出

伐採木の移動

植樹の準備が終わった植栽

伐採木の整理

平松区森林愛好会　里山づくり30年計画

A．滝谷ゾーン

①森の広場づくり
・里山整備の拠点として、また、自然との触れ合いの場として整備する。

②人工林の間伐
・伐採木の搬出のための作業道の整備
・自然観察路としても活用
・樹木板など植物植物紹介

③ヒノキの間伐のほか大径木の伐採木を木の駅プロジェクトへ搬入

B．広見寺西ゾーン

①民家に隣接する危険木を伐採する
・民家への倒木の危険性がある大径高木を伐採
・密集した里山の間伐をする
・クヌギ、コナラなどは、シイタケ栽培のホダ木や薪として活用する

C．広見寺東ゾーン

①竹林整備（1）
・伐採した竹をチッパーで粉砕
・粉砕した竹パウダーを活用した堆肥づくり
・竹堆肥を地域に配布するとともに有機肥料として販売する。
（里山ビジネスの起業）

②竹林整備（2）
・継続的な竹林整備をすることでタケノコを収穫する。
（里山イベントとして活用）

D．東滝の谷ゾーン

①秋の紅葉を楽しめる里山づくり
・除間伐、モミジの植栽
②ヒカゲツツジをはじめ、山野草やキノコを楽しめる里山づくり
③散策道の整備

E．滝谷上流ゾーン

①人工林の間伐
・作業道の整備、風倒木の除去
②散策道の整備

整備スケジュール

Ⅰ期（2019～2028）

【里山整備】
（全ゾーン）
・危険木の伐採
・木の駅プロジェクト
（滝谷ゾーン・広見寺東ゾーン）
・竹林整備
・竹パウダーの有機肥料化

【地域貢献】
・竹堆肥の地域への配付
・竹堆肥を利用した農産物や園芸への実証実験
・シイタケのほだ木づくり

【自然とのふれあいイベント】
・つる籠づくり
（広見寺東ゾーン）
・自然観察路づくり
・樹木札づくり

Ⅱ期（2029～2038）

【里山整備】
（滝谷ゾーン）
・作業道の整備
・人工林の間伐、搬出
・木の駅プロジェクト
（東滝の谷ゾーン）
・谷川沿いの除間伐
・モミジ等の植樹
・山野草などの植物調査

【地域貢献】
・民有林の請負整備

【自然とのふれあいイベント】
・つる籠づくり
・樹木札づくり
・自然観察路づくり

Ⅲ期（2039～2048）

【里山整備】
（全ゾーン）
・危険木の伐採
・木の駅プロジェクト
（東滝の谷ゾーン）
・散策路の整備

【地域貢献】
・民有林の請負整備
・たけのこ掘り

【自然とのふれあいイベント】
・東滝の谷など自然観察会
・つる籠づくり
・樹木札づくり

平松区森林愛好会　里山づくり30年計画「地域の資源としての里山を活用する！」

分　類		活用（目的）	活動内容	継続（持続可能な取組へ）	課　題
里山の資源	人工林	・ヒノキ、スギをチップ材として販売	・伐採⇒玉切り ⇒林内作業車⇒搬出 ・集積場へ運搬（レンタカー）	・安全管理（作業手順、器材、服装など） ・収益あり（活動資金の確保） ※木の駅プロジェクトが木材運搬を一括実施する方向を提案⇒他地域と連携	・運搬方法（費用） ・優良人工林の育成 （長伐期⇒木材販売） ・伐採地の更新（植樹？）
	二次林 広葉樹林	・ほだ木（椎茸） ・薪 ・桜チップ	・伐採（玉切り）、シイタケ栽培 ・伐採木の活用 ・伐採木の活用	・地域の文化祭で配布 ・薪にして販売 ・桜チップの販売 （活動資金の確保）	・栽培量の増加？ 栽培場所の確保 乾シイタケづくり？ ・広葉樹の植樹？
	竹林	・竹チップ ・材の活用	・伐採⇒チップ⇒販売 ・竹馬、そーめん流し用の樋 クラフト（器、皿）	・収益あり（活動資金の確保） ・竹チップの活用を広げる ・ノコギリ、ナタ、キリ・地域連携	・竹林の育成（持続的伐採） ・竹チップの肥料化 ・指導員の確保・養成
	林内道	・林内作業道 ・遊歩道	・間伐、搬出用 ・ハイキングやウォーキング、自然観察等に活用・整備 ・公民館～四阿の遊歩道の整備	・維持管理（点検・修繕） ・資材・機材の購入 ・ハイキングのルートとして活用 ・案内板、サインなど ・階段整備用資材	・みちマップ、自然ガイドマップなどの作成
里山の恵み	自然観察 環境学習	・ウォーキング ハイキング	・自然観察：春の山菜採り 秋の山菜・キノコ狩り ・樹木札（植物名）づくり	・地域の行事として定着化 ・食事会（天ぷら、炊き込みご飯など） ・札用の板、筆記具	・自治会と連携⇒自治会行事に位置付け ・女性陣の参加
	クラフト	・季節の飾り作成	・ツル籠、リースづくりなど ・正月（しめ縄、ミニ門松など） ・ツル、松ぼっくり、どんぐり、木の実などを集める	・材料集めから参加形式とする ・木の実交換会などの仕掛けづくり ・ウラジロ、ナンテン等の採取場の確保 ・クラフト機材	・自治会と連携⇒自治会行事に位置付け ・女性陣の参加
	栽培計画	・山菜の栽培 ・プリザーブドフラワー用材植物	・ワサビ、クレソン、タラの芽 葉ワサビ、ナメコなど ・アジサイの植栽	・試験栽培の実施 ・栽培可能種の設定 ・販売ルートの確保・栽培地の確保 ・機材（ビニールハウス等） ・栽培方法	・管理（栽培）体制の整備 ・新たな参加者への呼びかけ

3－3　北岡本自治会 30 年の森づくり

（1）北岡本自治会 30 年の森づくりの紹介

これまで自治会活動の一環として森林整備活動を実施しており、継続性については問題がない。活動を通して森林の現況は把握しているが、活動対象エリアが 70ha（個人有 50ha）と広く、整備のあり方については、アドバイザーの助言が必要です。

木の駅プロジェクトにも参加しており、薪づくりを行っている。参加者には、チェーンソー講習会を実施しています。

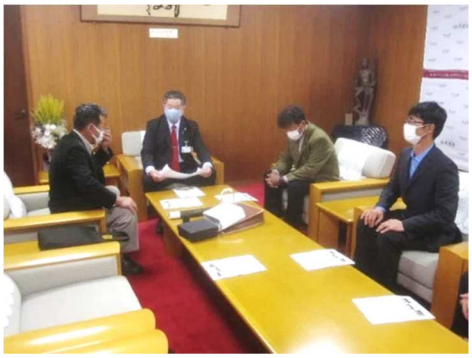
今後は、自然観察会やレクリエーションを含め、楽しめる森づくりの方向も検討していきたいと考えており、毎年、地域住民参加型で広葉樹の植樹や樹名板の設置などの植樹祭を開催しています。

30 年の森づくり植樹祭

林内作業車による倒木の搬出作業

薪づくり

（2）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2021 年 ４月始め	北岡本 電話	北岡本自治会 30 年の森づくり委員会 黒田前会長	・自治会長を交代することになった。 ・新しい会長は安達たかやさんとなる。 ・新しい会長は、これまでの森づくりの経緯をよく知らない。里山づくりの作業にもあまり参加していない。 ・現在やっている里山づくりについては、総会で説明し、了解も取ってある。が、引き継ぎ時に知らないと言われた。 ・会計についても、補助金に対して自己資本も必要であることを理解していない。 ・上記の内容を、次期会長や役員と話し合って、落ち着いたところで、新役員とアドバイザーで今後の里山づくりの方針を話し合ってほしい。 （アドバイザーとして了解した）
12月21日	丹波市 氷上庁舎	林丹波市長 黒田前会長 安達会長 和久副会長 余田農会長 アドバイザー	・2020 年度関西まちづくり賞の受賞（日本都市計画学会関西支部）12 月４日表彰式（コロナ禍のため順延となっていた） ・表彰を受け、丹波市長に表敬訪問 ・今後ともできる範囲で活動を続ける（安達） 
2022 年 １月 19 日	北岡本自治会 公民館	安達会長 役員数名 アドバイザー	・今後の里山づくりの進め方について協議 ・コロナ禍と降雪のため中止

１月27日	丹波の森公苑	里山づくり アドバイザー 会議	・アドバイザーの担当地区の今年度の活動と今後の課題について意見交換 ・本事業を始めて、3 年が経過し、各地区の課題や活動団体の意向も変わっているところもある。このため、県民局農林振興事務所としても各団体の意見を聞いていきたい。 ・ヒアリングの日程を調整していきたい。
３月８日	北岡本自治会 公民館	北岡本役員 安達会長 和久副会長 本庄副会長 余田農会長 斎藤会計 丹波県民局 雑賀課長 久保田 アドバイザー 門上	【現状】 ・北岡本自治会では、現在、県の住民参画型森林整備事業（3 年目）、森林・山村多面的機能発揮事業（2 年目）、セブンイレブン環境市民活動助成を実施していたが、セブンイレブンの活動としての植樹祭は、時間も余力もなくできないので、事業は行わず返納した。 ・住民参画型森林整備事業では、集落に近接する危険木の伐採を行った。 ・森林・山村多面的機能発揮事業は、当初計画は対象面積が広すぎることと作業内容が難しく危険であるため、変更申請した。（後載） ・木の駅プロジェクトにも参加しているが、今は余力がないため、中止している。 【活動予定】 ・里山づくり活動メンバーは、おおむね 10 人 ・年 15 日程度は活動を行う予定である。 【課題と今後の予定】 ・危険木伐採箇所の確認 ・林内作業道の危険個所の確認 ・森林・山村多面的機能発揮事業の実施方法

2　里山づくり活動の課題と今後の活動

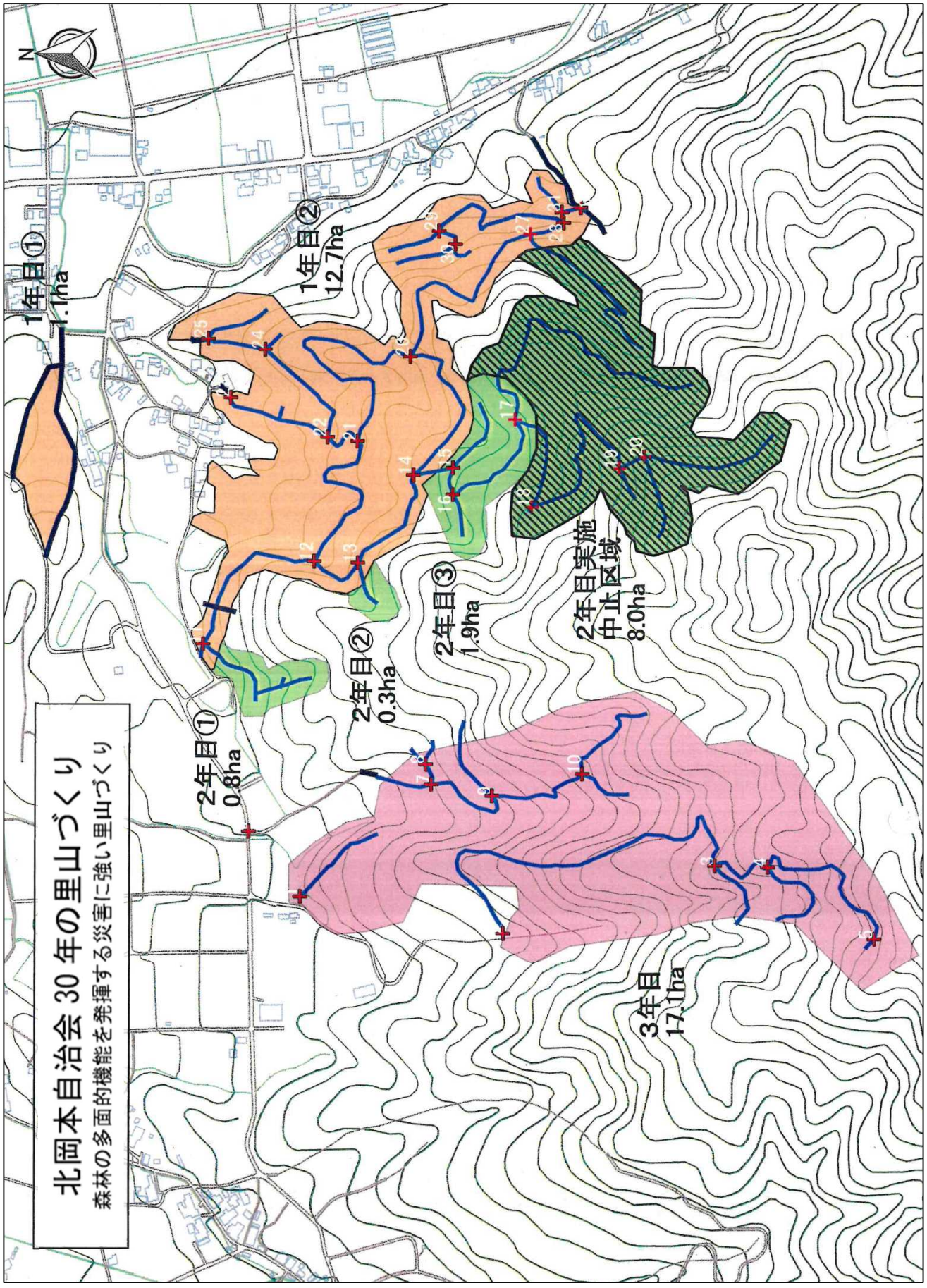
（1）活動の課題

- 黒田前会長が、防災里山づくりとして積極的に里山整備を行ってきたが、自治会長の交代に伴い、現会長との方針の違いがあり、活動が中断した。
- これまでの里山づくり計画を見直し、新たに里山づくり計画を策定する必要がある。
- 整備方針としては、森林・山村多面的機能発揮事業計画を実施するため、北岡本 30 年の森づくり計画にすり合わせることが必要。

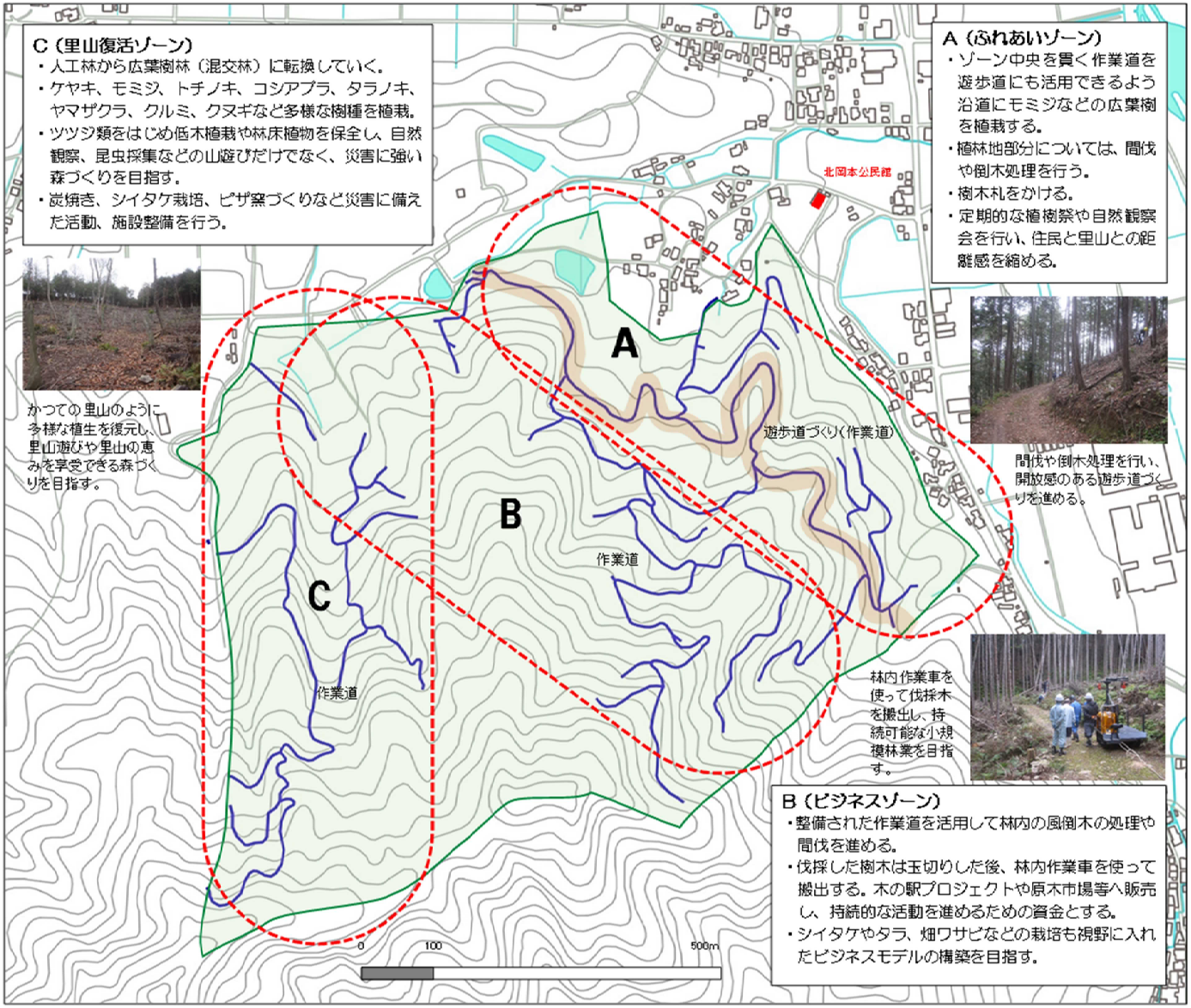
（2）今後の活動

- 今後、安達会長をはじめ活動の中心となるメンバーとともに、現地踏査を行い、活動可能な作業内容および対象地を確認する。
- 上記内容を整理し、地形図に落とし込み、活動メンバーとワークショップを通じて、新たな里山づくり計画を策定する。
- また、実際の作業内容を確認し、作業の安全性や参加者のモチベーションを確認しながら、今後の作業について検討する。

３　里山づくり計画見直し素案（森林・山村多面的機能発揮事業内容）



北岡本 30 年の里山づくり（森林の多面的機能を発揮する災害に強い里山づくり）



北岡本 30 年の里山づくり

・木材生産以外の森林の多面的機能が発揮できる健康的な森づくりを進め、災害に強い里山づくりを目指す。

■1 期（前期 15 年）

【A：ふれあいゾーン】
- 親しみのある遊歩道づくり
  - ⇨下刈り・間伐し、開放感のある雰囲気づくり
    紅葉樹や花木を遊歩道沿いに植栽する
  - ⇨イベント等を通して馴染みあるものとする

【B：ビジネスゾーン】
- 小規模林業を推進する
  - ⇨安全な伐採、玉切り、搬出作業等の訓練
    伐採・搬出エリアの計画的な実施
    材の活用、販売ルートの確保

【C：里山復活ゾーン】
- 多様な森林（混交林）に転換する
- かつての里山を復活、復元する
  - ⇨皆伐後、多様な高低木広葉樹を植栽する
    林床植物を保全し、災害に強い森づくり

■2 期（後期 15 年）

【A：ふれあいゾーン】
- 親しみのある遊歩道づくり
  - ⇨下刈り・間伐を継続するとともに、日常的な住民利用に対して、適切な維持管理を住民全体で実施する。
  - ⇨健康づくりや自然観察会等のイベントを定期的に実施する。

【B：ビジネスゾーン】
- 小規模林業の確立
  - ⇨作業の分業化、専門化を図り、安全で効率的な小規模林業を確立する。
  - ⇨シイタケ、タラ、畑ワサビ等の栽培をビジネス化する。

【C：里山復活ゾーン】
- 復活した里山、資源の活用
  - ⇨自然観察、昆虫採集等ガイドツアーの実施
  - ⇨様々な里山資源を活用し楽しむ。
    炭焼き、ピザ焼き、つる籠などのクラフトづくり、山遊びを行う。

3－4　森の学び舎／バイオマス丹波篠山

（1）森の学び舎の活動紹介

活動目的

森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足。

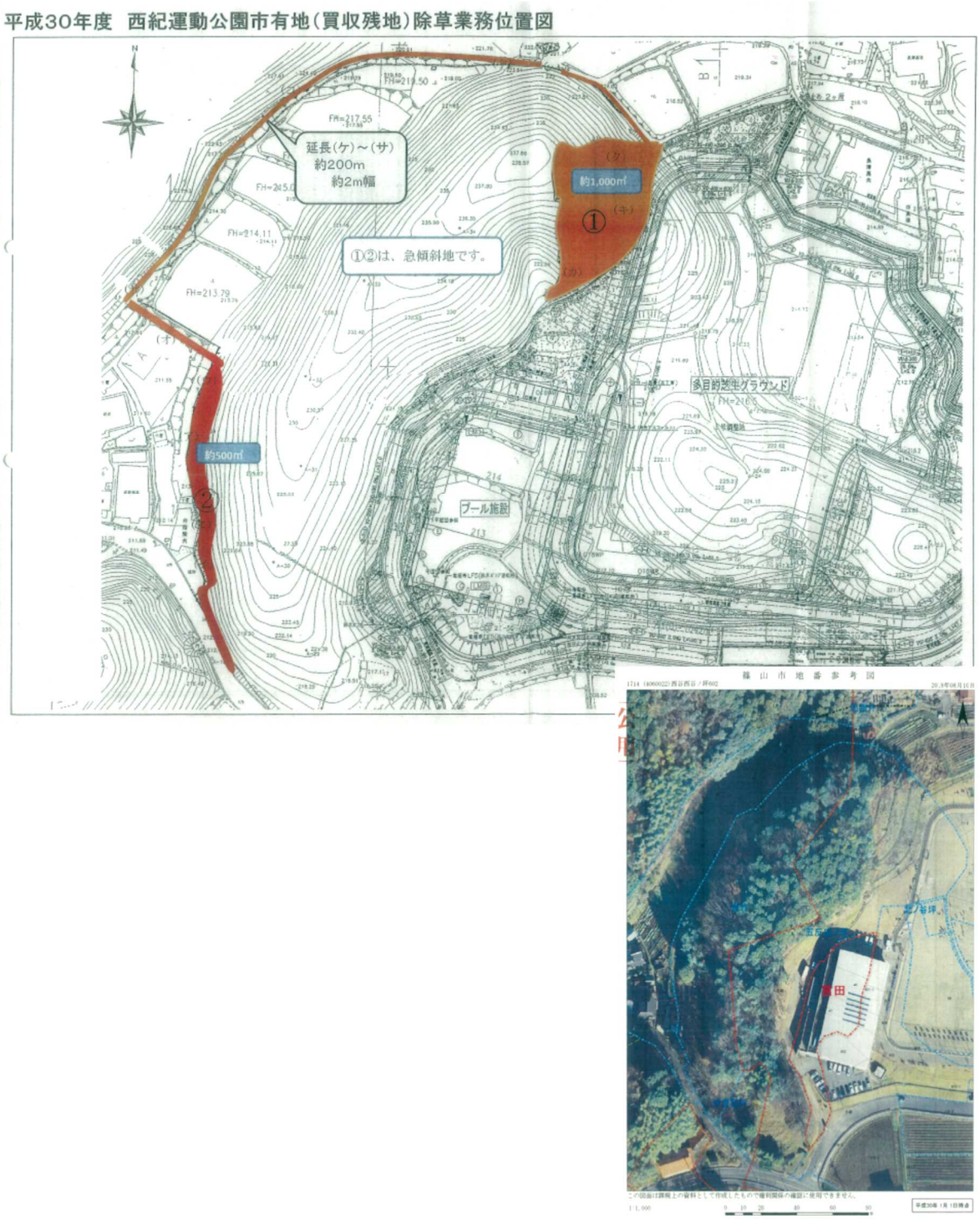
「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。

学びの場を提供するための環境を整えるために、地域の方々と共に継続して整備や管理を行う。地域の方々との協働を通じて、地域の方々のこれまでの森林とのかかわりや森林への思い、知恵や技術をうかがい、次世代につないでいきたい。また地域の方々自身も自分たちの地域の森林資源の豊かさや魅力を再認識し、森林にかかわる意欲が高まることも期待する。

地域への活動報告の広報誌などを作成することで、このフィールドでの活動が他の地域へ波及効果をもたらすことも図りたい。

（2）基本情報

- ☐ 活動場所：篠山市立西紀運動公園横里山（〒669-2721 兵庫県篠山市西谷 602）
- ☐ 活動面積：1.8ha
- ☐ 所有者：篠山市（教育委員会）
- ☐ 主な樹種：ヒノキ、カシ、ナラ、クリ、サカキ、コシアブラなど
- ☐ 活動主体：森の学び舎プロジェクト（事務局メンバー６名）
- ☐ 活動支援：NPO 法人バイオマス丹波篠山／八百材舎／丹波篠山市



（2） 活動目的

森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足。

「八百材舎」のメンバーを中心として、地域住民や学生を交えて篠山の森を森林資源として活用していくための活動基盤を作ることを目的とする。

（3） 目標とする森林像

「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。森林の維持管理を積極的に行うことで、森林の地力も再生し防災にも繋がると期待される。

学びの場を提供するための環境を整えるために、地域の方々と共に継続して整備や管理を行う。地域の方々との協働を通じて、地域の方々のこれまでの森林とのかかわりや森林への思い、知恵や技術をうかがい、次世代につないでいきたい。また地域の方々自身も自分たちの地域の森林資源の豊かさや魅力を再認識し、森林にかかわる意欲が高まることも期待する。
地域への活動報告の広報誌などを作成することで、このフィールドでの活動が他の地域へ波及効果をもたらすことも図りたい。

今年度の目標は、森で人が集い、活動できる空間を作ることである。そのためのオープンスペースや林道を整備する予定である。地域の人や学生、様々な分野で活躍する方などを呼び、森のことを学びながらこれからの森の在り方について自由に意見交換をしたい。

（4） 里山づくり 30 年計画

中長期的な目標として、5、10、30 年後にどのような森を想定しているかを以下に示す。

＜5 年後＞

林道などの基盤整備が完了し、フィールドが様々な人が集まる場として機能している。森の望ましい姿を理解し、そのための管理や整備作業を地域の方と協力して行われている。フィールドにかかわる者が森林に関する知識や技術を身につけ、今後さらに活動範囲を広げるための成長の場になっている

＜10 年後＞

望ましい森林の姿に近づいている。森林の管理や活用体制が整い、資源を有効利用してライフサイクルをまわしている。具体的には、間伐材や腐葉土の利用であったり、季節の果実

を収穫したり、普段の生活に密着した森林の使い方が浸透している。フィールドが森のありかたや人間の場について考え学ぶ場として広く認知されていく。

＜30 年後＞

生態系豊かな森林となり、遊び場や活用の場としていた次世代相（現在の子供たち）が自分たちの子供を連れて森林を案内・活用法を伝授する。

（5） 今までの主な活動内容（令和 3 年度）

＜11/20：森の遊び＞

コロナ禍に配慮し、通常のイベント形式ではなく、「開放日」という形で、人数限定（8 名まで）の完全予約制で森を開放する試みを行った。森の学び舎スタッフが付き添いでサポートし、参加者が思い思いに森を楽しむ様子が見られた。

※コロナや積雪の影響により、今年度の活動日は 1 日だけ。

（6） 今年度活動の評価と課題

□ 場所：八百材舎 BASE（丹波篠山市倉本 141）

□ 日時：2022 年 3 月 27 日（土）15:00-16:00

□ 参加：事務局メンバー2 名＋バイオマス丹波篠山理事長＋アドバイザー

〇今年度の活動の評価

- コロナによる緊急事態宣言やステイホームの動きに加え、事務局メンバーの出産や育児などもあり、中心メンバー不在の中活動するのが難しかった。
- 丹波篠山市による間伐事業のサポートもあって、森林の整備は概ね完成したと言える。
- 隣接する温水プールの利用者も山に上がるようになったという報告も受け、学び舎のテーマである「日常使いの森」のイメージにも近づいた。

〇今後の課題

- 事務局メンバーの異動や引越しなどに伴い、次のメンバーにバトンタッチする体制が整っていなく、「日常使いの森」をテーマにしているため、その運用体制自体が本当に必要なのかを議論したが、結果が出なかった。
- 今後は、イベント的な集まりを年１-２回行う程度となりそうだが、企画をするのは運営サポートをしている NPO 法人バイオマス丹波篠山が中心となる。その中で、次の事務局メンバー候補を探すこととなる。
- これはアドバイザーの私見だが、ある程度アドバイザーとしての役割は「森の学び舎」では終わっているような感じがする（整備もほぼ終わり、日常使いとしての機能も果たしているため）。今後は、丹波地域内で「森づくり」を進めてみたいと思っている方達に対して、アドバイスしたりコーディネートするような動きが必要な気がする。

普段使いの森づくり

森の学び舎プロジェクト実行委員会

今後 30 年間の整備スケジュール

(2019~2028)

＊右図のあるような林道、除間伐などの各ゾーンの基礎整備が完了し、人が入り心地よい森となっている。
＊整備にあたっては、参加型のワークショップを随時実施し、里山整備の知識や技術を学ぶ場として機能させる。
＊子どもの遊び場や周辺住民の憩いの場として、普段の暮らしの中で活用されるようにする。

(2029~2038)

＊基礎整備の効果として、植生が多様化している。
＊山林資源を活用するワークショップを実施し、山林資源活用の知識や技術を学ぶ場として機能させる。
＊この森で里山整備の知識や技術を学んだ人たちが、他の森で里山整備を展開するようになる。
＊引き続き、子どもの遊び場や周辺住民の憩いの場として、普段の暮らしの中で活用されている。

(2039~2048)

＊植生が多様化し、暮らしに活用できる森の恵みが豊かになっている。
＊この森で山林資源活用の知識や技術を学んだ人々が、日常的に森の恵みを暮らしに活用している。
＊この森で遊んでいた子供が大人となり、里山整備に携わっている。子どもを連れて森で遊んでいる。

【活動目的】

森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足。

「八百材舎」のメンバーを中心として、地域住民や学生を交えて篠山の森を森林資源として活用していくための活動基盤を作ることを目的とする。

【目標とする森林像】

「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。

森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。森林の維持管理を積極的に行うことで、森林の地力も再生し防災にも繋がると期待される。

3-5　ごんげん里山／バイオマスフォーラムたんば

（1）バイオマスフォーラムたんばの里山づくり活動の紹介

NPO 法人バイオマスフォーラムたんばでは、里山ごんげんさんで子どもの冒険広場を毎週土曜日開催しています。子どもたちが、「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを原則に、土・木・水などの自然の素材を自由に使って、プレーリーダーや地域の大人が見守る中で、自由な発想でいきいきと遊ぶことができる場所です。そこには「今日は何をして遊ぶぞ!」という大人が考えたプログラムは一切ありません。冒険ひろばでは、やってきた子どもたち一人ひとりがその場で考え、プレーリーダーは、子どもたちに遊びの素材やヒントを提供し、子どもの視線に立って遊びを支え見守ります。

森の幼稚園、保育園、認定子ども園、小学校の子どもたちが、自然の中で色々と発見し、里山ごんげんで遊んでいます。

森あそび

里山コンサート

（2）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
毎週土曜日 10 時～14 時	里山ごんげんさん	バイオマスフォーラム丹波会員 一般参加者	・森あそび ・森のコンサート ・クラフト ・カフェ
５月 29 日	里山ごんげんさん	バイオマスフォーラム丹波会員 地元住民	・里山あそび ・野外料理 ・ヒノキの皮むき間伐
７月３日	里山ごんげんさん	理事長	・鹿柵補修の打ち合わせ （ネット・ポール届ける） ・これからの整備計画 ・植栽計画
３月 19 日	里山ごんげんさん	理事長	・鹿柵の状況点検 ・植栽場所の下見 ・里山整備のヒヤリング

（3）30 年後の森づくり指針

・現在利用している場所の拡張
・ヒノキの植栽の部分を広葉樹やあそびに利用できる明るい場所に転換
・果樹や遊びに利用できる木の植栽
・メンバーのチェーンソー講習の実施
・鹿柵の補強
・ヒノキの大径木については業者も検討する

植栽木

栗　　本年度５本植樹	その他果樹　選定中
タラヨウ　葉書の木	ウコギ　食
ケンポナシ　食	
ムクロジ　羽根つきの実	
ムク　ヤスリの葉	
クロモジ　お茶	
コナラ　椎茸原木	

（4）今後の課題

・土地の登記が未だ進んでいない
・鹿柵の設置が遅れている
・マーキングした間伐が送れている
・理事長にうまく連絡が取れない

3－6　下三井庄地区

（1）下三井庄地区里山づくり活動の紹介

下三井庄地区の里山づくり活動は、自治会が主体となっている林野委員会（区有林の管理）と有志による下三井庄里山保全の会と大路未来会議（大路こどもの森の管理・運営）の３者が主体となって活動している。

住民参加型森林整備事業や森林・山村多面的機能発揮対策交付金などの補助制度を活用しています。

30 年後の森づくりとしては、下三井庄林野委員会が行っている松茸山の再生を引き続き行うとともに、森林経営計画の間伐終了地のギャップ等を利用して広葉樹林に導く施業の実施行います。また、里山保全の会が森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業で手入れしている森林については、住民が豊かさを感じられる里山づくりを目指します。

大路未来会議が取り組んでいるこどもの森は少しずつヒノキを伐採した場所を広げ広葉樹中心の里山づくりを進める。

里山づくり協議会を通じて、地域が一体となって里山づくりに取り組む意識を醸成することを最大の目標として里山づくり活動に取り組んでいます。

（2）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2021 年 ４月８日	下三井庄コミュニティセンター	下三井庄里山保全役員	里山保全の会役員会 ・今年度計画 ・全体計画の共有
６月 13 日	下三井庄地区	農地水環境保全の会	農地廻りの整備 ・地区土手等の草刈り整備
４月 18 日 （毎月）	地域全体の鹿柵	地域各組	鹿柵点検 ・作業日：４月 18 日～２月 13 日 毎月８時～１２時 ・内　容：鹿柵点検、鹿柵補修 倒木処理、下草刈り
６月 27 日	下三井庄ふれあい広場	里山保全の会メンバー	里山保全の会安全講習 ・安全教育（安全に関する考え方） ・用具・服装のチェック ・チェーンソーの整備、目立て

９月 26 日	地区林道など	地区住人 約 80 名	秋の道造り ・林道の整備 ・倒木処理・草刈り・土手焼き・水路掃除
11 月 21 日	下三井庄山林	林野委員・地権者　計 70 名	山林日役 ・地区山林整備 ・兵庫元気松植林 ・松茸山整備 ・広葉樹林の除間伐 ・植物資源の確認
2022 年 1 月 27 日	丹波の森公苑	里山アドバイザー	里山づくりアドバイザー会議出席

（3）里山づくり活動状況

①里山保全の会報告

森林山村多面的機能発揮対策事業

・実施日：6/12, 6/17 ,7/10 ,7/15, 7/25, 8/7 8/19, 9/16, 9/25 10/10, 10/21, 11/13,11/18 ,11/28, 12/11, 12/16, 12/26, 1/8, 1/20, 1/30, 2/12, 2/27,3/6　全 23 回

・内容：・獣害対策の為の除間伐
・道横の危険木除去
・薪作り、販売
・ログソールに依る板の制作
・キノコ原木作り

・安全講習

ログソール（板作り）

（4）活動課題

・参加者が現象傾向に有り、楽しい活動がのぞまれる。
・地域の状況で農繁期の活動が難しい
・区有林に落葉広葉樹の山整備に取り組みたい

大路未来会議報告

内容

毎月１回のあそびの学校

コロナの蔓延により数回実施を見送り

森整備

ナラ枯れの木の除去

ヒノキ・常緑樹の除間伐

笹等の下草刈り払い

課題

・ツリーハウスの老朽化で一部撤去したが、今後の修理必要

・台風等により毎年のように倒木有り、整備が追いつかず

・あそびの学校スタッフの確保

30年後の森づくり指針

・下三井庄林野委員会が行っている松茸山の再生は引き続き行う

ヘリコプターに寄る航空防除

兵庫元気松の植栽

・森林経営計画の間伐終了地のギャップ等を利用してコナラ林に導く施業の実施

残っている大径木の若返りを図る

コナラの苗を育て植樹を考える

ヒノキの植林地の伐期が近づいているので、その後の施業に繋げる

災害に強い山に誘導する

・里山保全の会が森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業で手入れしている森林について山菜など徳用林産物などの樹木を意図的に残す

ウコギ科植物など

住民がゆたかさを感じられる山に導く

間伐材を薪として販売

椎茸等の原木作り　等の活動を通して自立

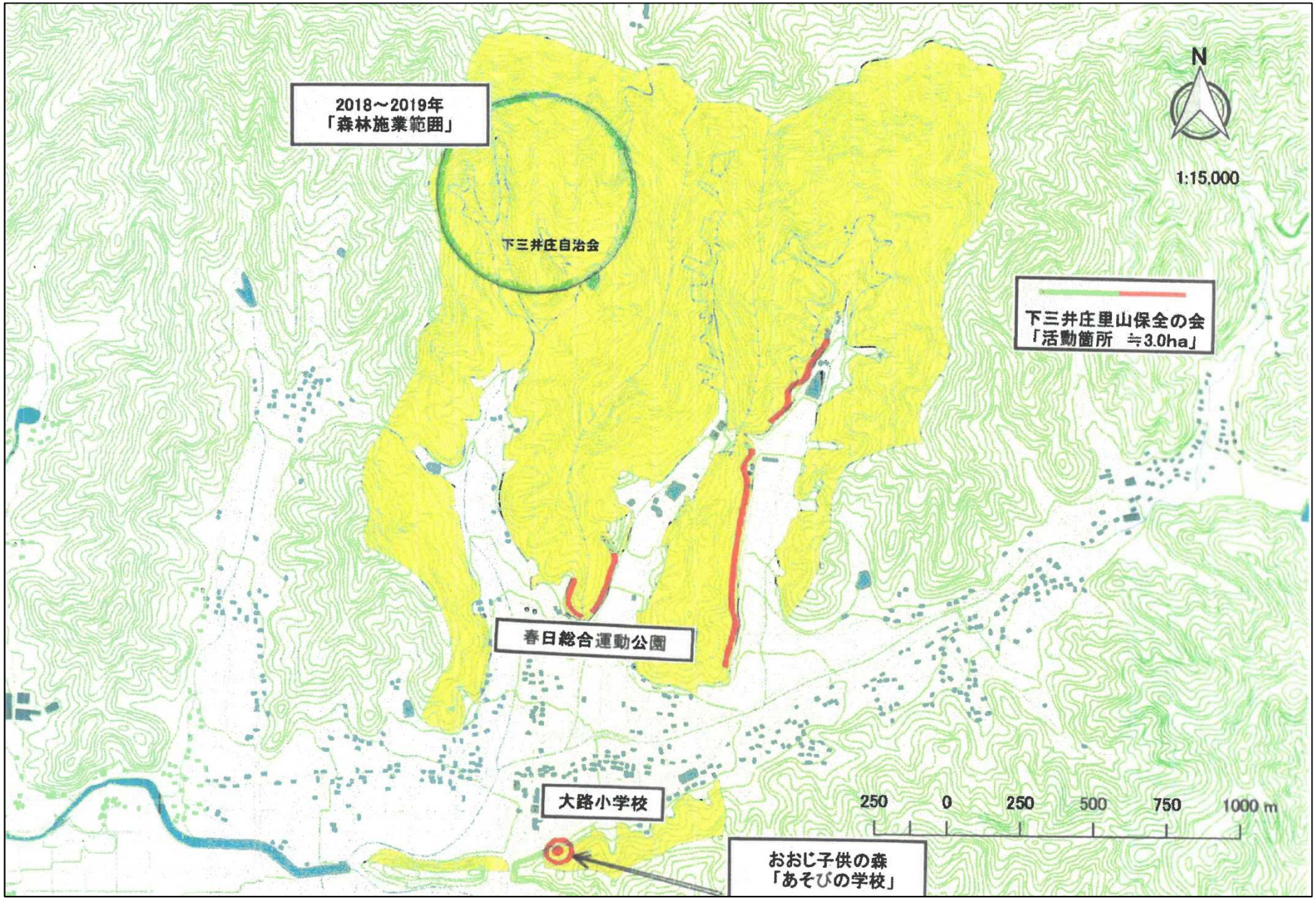
・大路未来会議が取り組んでいるこどもの森は少しずつヒノキを伐採した場所を広げ落葉広葉樹中心の山にみちびく

現在ある広葉樹を親木としてのこす

広葉樹林化の実験場として植物の遷移などを見守る

こども達が森林に親しむ場所として整備する（里山保全の次世代を作る）

・里山づくり協議会を立ち上げ、地域が一体となって里山づくりに取り組む意識を醸成する


2018～2019年
「森林施業範囲」
下三井庄自治会
N
1:15,000
下三井庄里山保全の会
「活動箇所　≒3.0ha」
春日総合運動公園
大路小学校
250 0 250 500 750 1000 m
おおじ子供の森
「あそびの学校」

令和2年度
森林・山村多面的機能発揮対策事業
位置図

実施者：下三井庄里山保全の会
実施場所：丹波市春日町下三井庄　地内
実施面積：里山林保全　2.0.ha

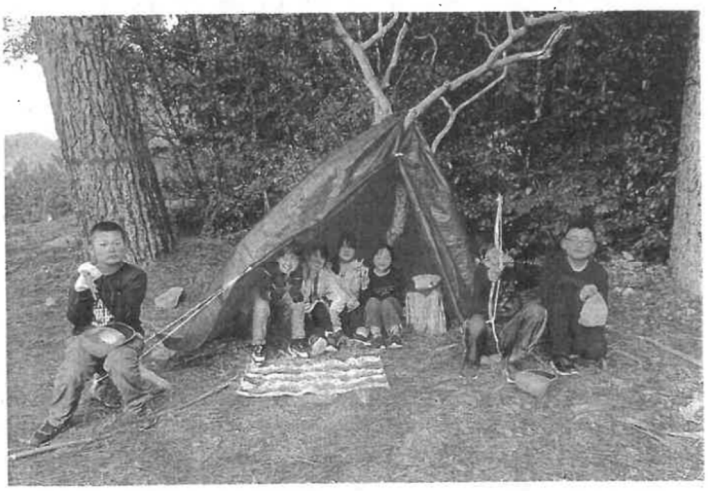
3－7　ふるさと和田里山づくり協会

（1）ふるさと和田里山づくり

岩尾城跡（石垣周囲の樹木の伐採、参道途中の井戸の改修など）、校山園（学校林の活用）、小新屋観音（後背地の人工林の管理、危険ぼくの伐採）、石金山（登山の改修、山頂展望台周辺の管理、人工林の間伐の推進など）の４地区の維持管理に取り組んでいます。

今年度の活動については、校山園（和田小学校学校林）での森あそびの場づくり活動を中心としています。校山園を明るくするために伐採したコナラなどを活用したシイタケづくりやかつて実施したオオムラサキの飼育ゲージを再整備を行っています。

和田小学校　丹波市山南町和田



和田っ子の遊び場「校山園」

学校の北側には里山「校山園」があり、子どもたちが毎日楽しく遊んでいます。ふるさと和田振興会の協力で、新しく生まれ変わろうとしています。

先月、3年生がシイタケの菌打ち体験をしました。原木にドリルで穴をあけ、菌を打ち込みました。シイタケを収穫できる日が楽しみです。

国蝶のオオムラサキのケージもあるんですよ。エノキの木を植樹していただきました。ケージの中ではオオムラサキの幼虫が育っていて、春になるとさなぎになって、やがて美しいオオムラサキが飛び交います。

5年生は誰もが親しめる「校山園」にしようと、樹木58本に木の名前を手書きで書いて名札をつけました。

和田小学校は、たくさんの地域の方に支えられながら学べる楽しい学校です。新入生のみなさん、ぜひ「校山園」で一緒に遊びましょう。

神戸新聞 2022年2月11日

（2）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020年 ４月７日	丹波の森公苑	村上会長 アドバイザー	・今年度の活動について協議 ・校山園／和田小学校隣接地を中心に活動をする。 ・森林・山村多面的機能発揮対策交付金活動は、校山園の活動と並行しながら実施する。 ・かつて実施したオオムラサキの飼育を実施したいとのこと……丹波の森公苑の森づくり課の角谷先生を紹介 ・改めて、オオムラサキの飼育と里山づくり活動について講義をして欲しいとのこと ⇒アドバイザー了承
4月13日	和田地域づくりセンター	里山づくり委員 丹波市	ふるさと和田里山づくり協会総会 ・会員数：委員18名、協力員８名、計26名 ・岩尾城跡地区：石垣北側斜面の樹木の伐採等 ・校山園地区：オオムラサキのゲージ、エノキの植栽、小学生による樹名板設置・シイタケの植菌等 ・小新屋観音：本堂裏山の危険ぼくの伐採など ・石金山：頂上周辺の雑木の伐採、作業道の整備
6月12日	和田地域づくりセンター	里山づくり委員 角谷先生	勉強会 ①多様な里山づくりについて（門上アドバイザー） ②オオムラサキ飼育について（角谷アドバイザー）
6月26日	校山園		オオムラサキ飼育ゲージとエノキの植樹

9月25日	校山園	里山づくり委員	校山園での森の木々を使った遊び広場づくり ・樹木が大きくなって暗くなっている ・間伐を行い、林床を明るくする ・シイタケ栽培用のコナラ、クヌギ、アベマキ等を伐採し、玉切り（L＝1m）する。
11月10日	校山園	里山づくり委員 和田小学校生	校山園内樹木の樹名札付け（和田小６年生） ・事前の植物調査を山崎アドバイザーに依頼 ・小学生が制作した樹名板を指定木に設置
2022年 1月26日	和田小学校	里山づくり委員	シイタケの植菌（和田小学校５年生）
1月27日	丹波の森公苑	アドバイザー	里山づくりアドバイザー会議出席
2月12日	岩尾城跡地区	里山づくり委員	石垣の露出：石垣北側～西側斜面の樹木の伐採 公民館駐車場に集合

（3）令和３年度里山づくり活動写真

①令和３年６月 12 日：里山づくり勉強会（里山づくりの多様性、オオムラサキについて）

②令和３年６月 26 日：オオムラサキ飼育ゲージ整備（周辺樹木伐採、エノキの植栽）

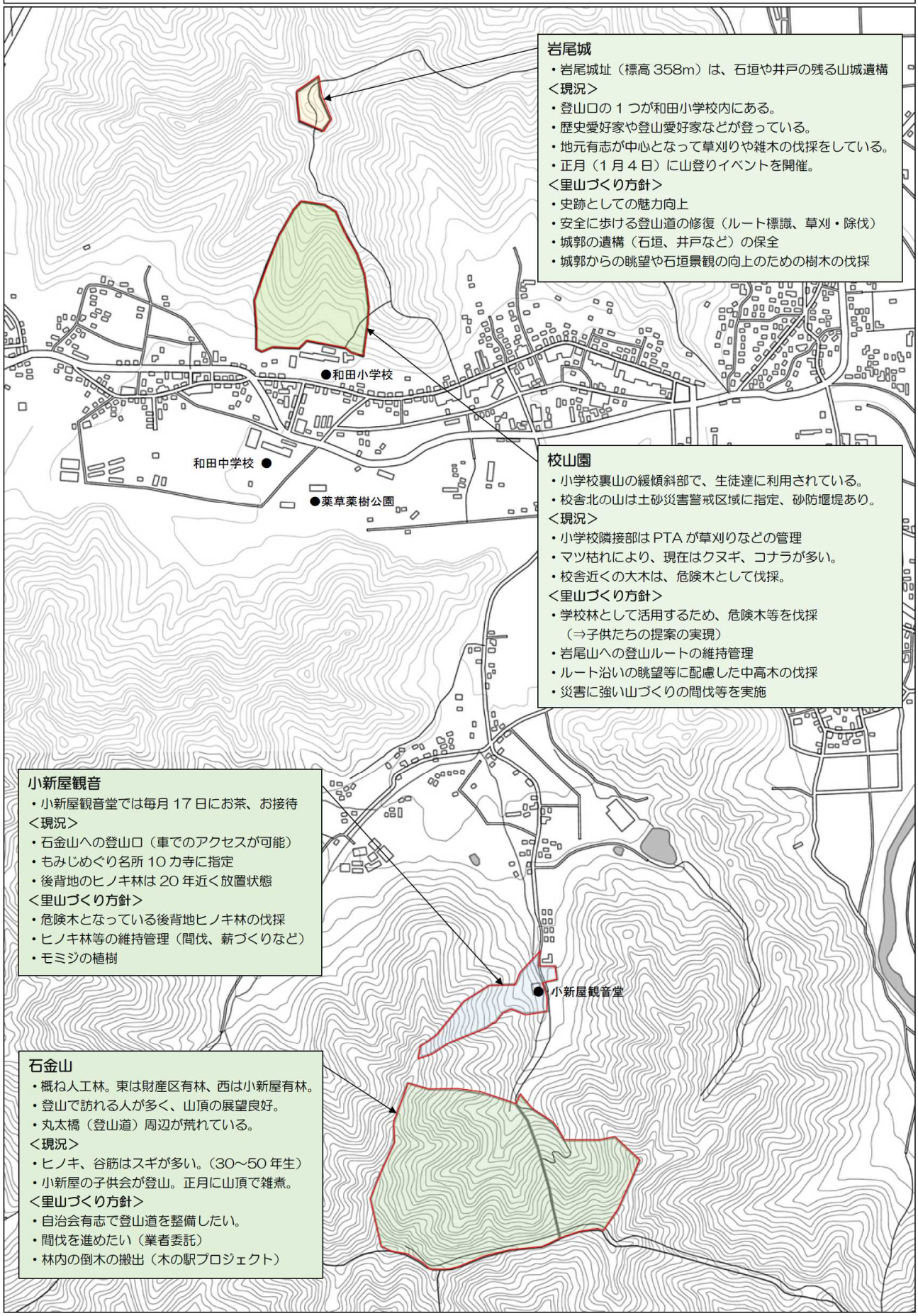
③令和３年 11 月 10 日：樹木札の取り付け（和田小学校６年生）

④令和４年１月 26 日：シイタケ植菌（和田小学校５年生）

④令和４年２月 12 日：岩尾城跡の石垣北側～西側斜面の樹木の伐採

ふるさと和田里山づくり計画

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援事業



岩尾城
- 岩尾城址（標高 358m）は、石垣や井戸の残る山城遺構

＜現況＞
- 登山口の 1 つが和田小学校内にある。
- 歴史愛好家や登山愛好家などが登っている。
- 地元有志が中心となって草刈りや雑木の伐採をしている。
- 正月（1 月 4 日）に山登りイベントを開催。

＜里山づくり方針＞
- 史跡としての魅力向上
- 安全に歩ける登山道の修復（ルート標識、草刈・除伐）
- 城郭の遺構（石垣、井戸など）の保全
- 城郭からの眺望や石垣景観の向上のための樹木の伐採

校山園
- 小学校裏山の緩傾斜部で、生徒達に利用されている。
- 校舎北の山は土砂災害警戒区域に指定、砂防堰堤あり。

＜現況＞
- 小学校隣接部は PTA が草刈りなどの管理
- マツ枯れにより、現在はクヌギ、コナラが多い。
- 校舎近くの大木は、危険木として伐採。

＜里山づくり方針＞
- 学校林として活用するため、危険木等を伐採
  （⇒子供たちの提案の実現）
- 岩尾山への登山ルートの維持管理
- ルート沿いの眺望等に配慮した中高木の伐採
- 災害に強い山づくりの間伐等を実施

小新屋観音
- 小新屋観音堂では毎月 17 日にお茶、お接待

＜現況＞
- 石金山への登山口（車でのアクセスが可能）
- もみじめぐり名所 10 カ寺に指定
- 後背地のヒノキ林は 20 年近く放置状態

＜里山づくり方針＞
- 危険木となっている後背地ヒノキ林の伐採
- ヒノキ林等の維持管理（間伐、薪づくりなど）
- モミジの植樹

石金山
- 概ね人工林。東は財産区有林、西は小新屋有林。
- 登山で訪れる人が多く、山頂の展望良好。
- 丸太橋（登山道）周辺が荒れている。

＜現況＞
- ヒノキ、谷筋はスギが多い。（30～50 年生）
- 小新屋の子供会が登山。正月に山頂で雑煮。

＜里山づくり方針＞
- 自治会有志で登山道を整備したい。
- 間伐を進めたい（業者委託）
- 林内の倒木の搬出（木の駅プロジェクト）

3－8　上板井自治会

（1）上板井自治会里山づくり活動の紹介

丹波篠山市上板井自治会では、これまでに地域のコミュニティづくりの一環として、草刈りなどの地域内環境整備活動に取組んでいました。その活動を発展させるために、地域の里山整備と併せてシイタケ作りを始めています。

自治会の管理する里山で、これまでもマツタケ山再生整備活動も実施し、シイタケ作りも行っていましたが、2020 年度から森づくりアドバイザーに入ってもらい鳥取県の日本キノコセンターの普及員の指導も受けて、活動地を「板井里山きのこ園」として、本格的にすぐに結果の見えるシイタケ作りを核とした里山づくりの活動を進めています。

会の活動としては、スタート時から新型コロナウイルス感染拡大予防対策のために、集会活動が制限されたことで、里山づくり全体の具体的な活動計画を考える会が出来ていませんが、原木の伐採、玉切り、植菌などの現場活動は進めており、若い世代のメンバーも参加するようになってきました。

（2）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2022 年 1月27日	丹波の森公苑 会議室	丹波の森協会 丹波農林振興事務所 里山アドバイザー	アドバイザー会議 各活動地の実施状況 今後の取組方等について意見交換
1月27日	電話	上板井自治会 活動代表者	活動状況の近況確認 シイタケ収穫をしているが、あまり発生していない。（今年は発生量が少ないらしい） これから、山に入る予定である旨確認
3月12日	上板井自治会 活動現地 きのこ園	上板井自治会メンバー6 名 アドバイザー	２月23日のシイタケ原木になる立木の伐採を４名で行っていた。 今回は、伐倒木の玉切りと搬出作業 上下作業の危険注意 伐倒木の玉切り作業の注意点指導 掛かり木処理の指導 チェーンソーの目立ての指導など まとめて伐倒してから、その場で玉切りをして土場までの運搬は少し危険であることの注意と、作業歩道または運搬車が通れる幅員の道整備を提案。

シイタケの発生状況

急斜面での上下作業の危険について指導

チェーンソーの玉切り時の挟み込み回避技術の指導

（3）活動の課題

上板井地区は、既存の活動の中で、地元の男性達が里山に関わることで、コミュニティづくりをしていこうと始まった活動である。

当初は、シイタケ作りのアドバイスを頂きたいというところから入っていき、昨年度はシイタケ原木の伐採作業等にも立ち会い、作業場の安全面など注意点などアドバイスを行ってきた。今年度も新型コロナの影響で、集会を行う機会がなく、今年度末の２月、３月に原木伐採作業と玉切り作業が行われた。

事前に活動に関して連絡を頂けるように声かけをしていたが、ルーチン作業のためか、特に声が掛からなかったので、こちらから尋ねて３月の活動日に立ち会わせてもらった。

結構危険な作業をされていたりするので、安全確認などの意識啓発の機会を持つ必要がある。

シイタケ作りを中心に取組まれており、里山の全体的な将来ビジョンや整備計画などが共有されていないように思われる。

一度、活動メンバー全体で、今後の取組み方針や里山のデザインなどについてワークショップを開く必要がある。

（4）今後の活動

前記の課題として、里山づくりの意識共有を図っていく。

主体の活動はシイタケ作りであるが、継続的に里山と関わりながらシイタケの生産活動を安全に次の世代へ繋いでいくという取組みを考えてもらえるよう、働き替える必要がある。

竹林やマツタケ林造成なども視野に入れて、経済価値の高い里山づくりを目指していく。

今は人が集まって活動されているので、裾野を広げていけるよう未来の見える里山づくりを目指す。

（5）提言

今は、シイタケだけに目が向いているところであるが、原木伐採という考え方では無く、里山の整備で木を伐採して、伐採した木をシイタケに使う。樹種によってはそれぞれの特長を活かした使用方法があるので、里山の資源を大切にして整備と利用について考える場を作ることが必要である。

3－9　八幡共有山組合

（1）八幡共有山組合の里山づくり活動の紹介

丹波篠山市八幡共有山組合では、組合所有林の管理の一貫として平成 10 年度に整備された大沢ロマンの森の遊歩道（登山道）、周辺森林の整備と、ここ数年は、針葉樹林と広葉樹林の混交林整備事業地の広葉樹ゾーンの保育作業に取組んでいます。

2020 年から、現状の組合員の高齢化を考えて、今後の活動をどのように進めていくか？をテーマに検討しているところですが、この 2 年間は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、新たな人を集める企画等ができませんでした。

令和 3 年度からは、現組合員による活動になりますが、新たに白髭山に通じる登山道整備にも手がけて、多くの登山愛好家に親しんでもらえる里山づくりを目指しています。

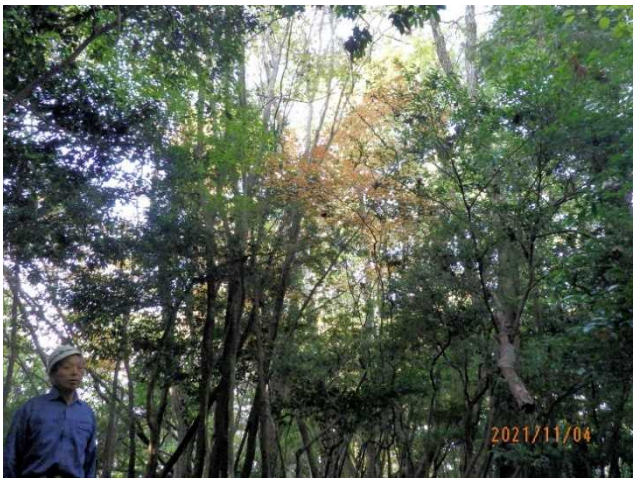
（2）令和 3 年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2021 年 4 月 9 日	丹波篠山市役所	八幡共有山組合 井上会長 小野田会計 維田アドバイザー	今年度の事業について 補助事業等の相談、 森林山村多面的機能発揮交付金についてアドバイス
4 月 18 日	大沢ふれあいセンター	八幡共有山組合 井上会長他 役員 5 名 維田アドバイザー	6 月の活動内容について、昨年度の活動を踏まえ、整備方針についてアドバイス 今後の取組み方について若い世代を巻き込む方法などアドバイス。
6 月 5 日	大沢 混交林現地	八幡共有山組合 組合員 維田アドバイザー	針広混交林植栽ゾーンの整備方針、現地植生の活用方法等アドバイス。 （木イチゴが繁茂している。）
6 月 13 日	大沢 混交林現地	八幡共有山組合 組合員 維田アドバイザー	針広混交林植栽ゾーンの整備方針、現地植生の活用方法等アドバイス。 （木イチゴが繁茂している。）

６月 17 日	丹波篠山市役所 森林山村多面的機能発揮交付金事業計画地	八幡共有山組合 井上会長他１名 市役所担当者２名 県森林組合連合会 担当者２名 維田アドバイザー	森林山村多面的機能発揮交付金活用事業計画地と整備内容の確認
６月 22 日	丹波篠山市役所	八幡共有山組合 井上会長 小野田会計 維田アドバイザー	森林山村多面的機能発揮交付金事業の活動方法等についてアドバイス
11 月４日	音羽山周辺 森林山村多面的事業活動地	八幡共有山組合 井上会長他２名 維田アドバイザー	整備状況を確認、今後の整備方法、資料のとりまとめ方法等についてアドバイス
11 月 28 日	大沢ふれあいセンター	八幡共有山組合 井上会長他 役員５名 維田アドバイザー	総会に向けて、 今後の事業展開、整備箇所の PR 方法や活用方法についてのアドバイス
12 月９日	音羽山周辺 森林山村多面的事業活動地	八幡共有山組合 井上会長他２名 維田アドバイザー 市役所担当者２名	整備状況を確認、今後の整備方法、資料のとりまとめ方法等についてアドバイス
2022 年 １月 19 日	市役所会議室	八幡共有山組合 井上会長 小野田会計 維田アドバイザー 市役所担当者 県森連事業担当者	森林山村多面的機能発揮交付金事業の資料のとりまとめ方法についての指導 現在活動状況のヒアリング
2022 年 １月 27 日	丹波の森公苑 会議室	丹波の森協会 丹波農林振興事務所 里山アドバイザー	アドバイザー会議 各活動地の実施状況 今後の取組方等について意見交換
３月 14 日	市役所	八幡共有山組合 井上会長 維田アドバイザー 市役所担当者２名	森林山村多面的機能発揮交付金事業の資料のとりまとめ状況確認 モニタリング調査の手法について指導
３月 22 日	音羽山周辺 森林山村多面的事業活動地	八幡共有山組合 井上会長他２名 維田アドバイザー 市役所担当者	森林山村多面的機能発揮交付金事業のモニタリング調査の手法について現地指導

６月５日　組合員活動　広葉樹林ゾーンの除伐作業　除伐樹種の指導等

１１月４日　現地整備活動　伐採樹種の指導　紅葉のゾーンづくり



（3）活動の課題

八幡共有山組合は、組合としてのベースとなる活動があり、その取組みが針葉樹と広葉樹の混交林整備事業箇所の広葉樹植栽 zーンの手入れがメインになっているところであるが、一部組合員の役員等で、森林山村多面的機能発揮支援交付金の活用で、登山道沿道整備を進めている。

整備されたことにより、登山目的の入山者も増え、活動性かが上がっている。

この活動を次の世代に如何に繋いでいくかが大きな課題である。

組合の組織としては継続されるが、この様な山の整備の活動は次の世代が関わっていかないと継続されないと懸念される。

この登山道整備や整備箇所の活用について、次世代も交えて考えていく必要がある。

今のハードな作業は、高齢化した会員には限界があると感じられる。

（4）今後の活動

現在の役員は、大変熱心に活動をしようとしているが、若い世代にどのようにバトンタッチ

させるか？

当面は今年から３年間は補助を受けられる事業に取組んでいるので、その間に若い世代を取り込むプログラムを検討し実施する。

（5）提言

今年度から取組んでいる事業は、大変ハードな条件があるが、現役員の熱意で実施されている。この思いを次の世代に繋いでいく必要があり、そのことについて相談する機会が必要。

3-１０　岩崎地区

（1）岩崎地区の里山づくり活動の紹介

丹波篠山市岩崎地区では、安全安心な里山づくりに取組みたいとの思いから 2020 年に岩崎自治会里山づくりを考える会（仮称）をスタートしました。

当地域は、比較的ヒノキ、スギの人工林の割合が高く、防災面と併せて景観的にも彩りのある広葉樹林に転換していきたいとの構想があります。そのため、2019 年度には市の補助事業で広葉樹林化皆伐モデル事業にも取組んでいたことから、伐採跡地の広葉樹林化を目指し、広葉樹苗木の植栽を進めているところです。

会の活動としては、スタート時から新型コロナウイルス感染拡大予防対策のために、集会活動が制限されたことで、具体的な里山づくりを考える会の活動が出来ていませんが、自治会の活動としては、皆伐事業跡地への植樹活動は進められています。

広葉樹林化のための伐採事業地の植樹についての現地調査

（3）令和３年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2021 年 7 月 19 日	岩崎公民館	酒井自治会長 NPO バイオマス 市役所 維田アドバイザー	森林経営計画の作成について相談
8 月 25 日	岩崎地区広葉樹林化皆伐事業地	酒井自治会長 市役所担当者 維田アドバイザー	地区内の広葉樹林化皆伐事業跡地の調査
2022 年 1 月 27 日	丹波の森公苑 会議室	丹波の森協会 丹波農林振興事務所 里山アドバイザー	アドバイザー会議 各活動地の実施状況 今後の取組方等について意見交換
3 月 14 日	岩崎公民館 R1,２年度実施広葉樹林化皆伐事業地	酒井自治会長 酒井前自治会長 市役所担当者 維田アドバイザー	森林経営計画策定に向けての地元情報把握状況確認（名寄せ図の確認） 林班計画ができる要確認（出来そう） 伐採跡地現場で苗木の準備状況確認 植栽場所について指導

広葉樹林化皆伐事業地の全景

準備されている苗木（コナラ）

苗木の植え付け場所の検討

４　里山づくりアドバイザー会議

里山づくりアドバイザー会議　議事録

日　時：令和４年１月27日（木）　10：05～11：45
場　所：丹波の森公苑　２階　会議室３
出席者：雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）、久保田誠司（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）、維田浩之（里山アドバイザー）、内田圭介（里山アドバイザー）、山崎春人（里山アドバイザー）、門上幸子（里山アドバイザー）、門上保雄（丹波の森研究所）、荻野朋子（兵庫丹波の森協会）

司会（門上）：おはようございます。それでは会議を始めたいと思います。今年度はコロナの影響もあってコロナなんかもあり、アドバイザー会議を開くつもりが今日になってしまいました。今日はいろいろ意見公開をしたいと思います。では、次第に従って進めたいと思います。まず開会にあたりまして、丹波の里山づくり促進事業実行委員会の事務局であります丹波農林振興事務所の雑賀さんからお話をいただきたいと思います。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：丹波農林振興事務所の雑賀です。いつもアドバイザーとして、ご協力いただきまして、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。先ほどもお話がありましたが、コロナが落ち着いたかなと思ったら、急にまた感染拡大してきまして、アドバイザーとして各モデル団体に入っていくこともなかなか難しいような状況になってきています。あと期間もあまりありませんが、できる範囲でお願いしたいと思います。それで現状としまして、今年の里山づくり促進事業につきましては、昨年と同様の形で進めているのですが、来年度の話も含めてお話させていただきます。この里山づくり促進事業も４年目を迎えまして、県民局もトップも代わりながら、当初里山づくりというのは丹波の森宣言から 30 年ということで、次の 30 年という考え方で、地域住民の主体でやってきましたが、少しちょっと舵をきると言いますか、丹波地域に対して関係人口も増やしていこうと、そういう意味の取り組みも少しやっていこうという方向に来年度から考えていこうかと。まず来年度の考え方としては、どんな資源があるか、都会から来て関係して関わっていただく。ただ、それもある程度、地域への経済効果、経済に寄与できるようなもの、そういったものがどのようなものがあるかを検討して行きたいと思っています。将来的には丹波の里山づくり実行委員会、これも丹波県民局で事務局をさせてもらっているのですが、このままずっと続くかというと行政ですので、どこまで続けられるかわかりません。それを民間かどこかそういった組織に移管していきたいなと考えております。そうなると、やはりその経済性、収益性そういったものが関わってきますので、どういうふ

うにすれば、そういうことがうまく行くかというようなことを含めて、検討を来年からしていきたいと考えております。ただアドバイザーについては 30 年、長期にわたって支援していくということで、これについては引き続き継続していきたい。やり方については、これも４年経ちまして、ある程度形ができてきて、次のステップっていうのも少し考えられればと思っておりますので、今日いろんなご意見いただければと思っております。

司会（門上）：資料の確認をしておきます。今一番上にあるのが次第です。２枚目がアドバイザー活動報告です。事前にもらっている分のみは簡単にまとめました。３枚目がこれも事前で意見をいただいている分についてのみですが、簡単に今後のアドバイザーのあり方についての話を載せてます。ホッチキス止めの分は、なかなかお渡しする機会がなかったのですが、メールでは PDF で送ったかなと思います。昨年度の分の里山づくりの報告書です。また目を通してください。

　次第の２のアドバイザー自己紹介ということで、それぞれお名前と担当地区の近況などをお話していただければと思います。里山アドバイザー報告の順番でいくと内田さんからお願いします。

内田圭介（里山アドバイザー）：主に西紀の運動公園をフィールドにした森の学び舎の活動団体をアドバイスしています。この森の学び舎ですが、基本的な一般公募での里山整備ということで外部の人、主に親子連れさんですが募集して里山整備にあたるという活動ですが、ちょっとコロナの影響とか云々の話があって、正直、昨年一年度は余り活動ができませんでした。ちょっと落ち着いた 11 月 20 日ぐらいに通常の里山整備という川・里山の資源を利用して、火を使ったりとか、料理したりとか、ちょっとした音楽会みたいな形で活動を行ないました。12 月も予定していたのですが、あいにくの降雪のため中止ということで今後ちょっと３月までに１回、今中心となっているメンバー、地元の方も含めてですが、来年以降どうしていくかという話し合いができればと思っています。ここには書いてないですが、11 月から 12 月中旬にかけて市の要請に従いまして、一部間伐、スギ・ヒノキのあたりをちょっと行いました。これは学び舎ではないのですが、そういった意味で何かしらここの山林の手は入っているのかなという感じです。

門上幸子（里山アドバイザー）：平松森林愛好会を担当しています門上です。平松森林愛好会はご存知のように森林多面的の国の助成金をもう２回目受けておられて地道な活動を定期

的にされております。非常に自立した団体ですので、私の方が特に何をということなく、伊藤さん中心に活動を定期的に進めておられます。最近、去年一年ぐらいから女性も一人加わりまして、女性が入られて雰囲気が明るくなったような感じがします。最近の状況で言いますと、今までの活動以外にここにある兵庫ドングリ千年の森をつくる会というのがありまして、これは平成 13 年に発足された団体で、明石公園で採りましたドングリの株主を募って、ひと株 500 円の寄付をもらったドングリひろい育苗植樹下草刈りの活動資金としながら活動されています。現在、株主というふうに呼んでいるのですが 600 名おられそうです。１歳から 80 歳と老若男女いろんな方々が、全国的に見たら東北から九州まで広範囲に株主を募集して、兵庫県では明石公園で採れたドングリをこれまでに加古川と明石と宍粟市にずっと毎年継続的に植樹をしています。株主さんたちが明石公園で拾ったドングリを協賛している団体がそれぞれ会社で育てて、年に１回、今まで宍粟市が多かったのですが、この度、丹波市で植樹イベントをするそうです。それが新たな活動ということで、去年はそれの相談といいますか、どんなふうに進めるかということで、２回ですかね。電話でも話をしているのですが、ちょうど１月 22 日に千年の森をつくる会の方たちが事前の植樹の候補地のフィールドのあの地拵えというか、それに来ていただきまして一緒に整備作業をしました。その時に４月 10 日にイベントがあるのですが、それに向けての準備というか、打ち合わせを行ないました。実際の準備をまた直前の３月 19 日に最終調整をする予定です。伊藤さんを中心として平松は本当に積極的で、こういった新たな団体との連携も熱心ですし、あとマキを作って神戸のピザ屋さんに売ったり、それから最近は生ゴミ処理機をなんか開発したみたいで、それを販売していきたいということで意気込んでおります。キエーロです。丹波市の助成金で買えるようなので準備しているみたいです。それ以外にも整備の委託を受けたりと、すごい伊藤さんも元気で、おそろいのジャンバーなんか作ったりして。私もずいぶん長く伊藤さんとお付き合いさせていただいて、行くたびにやっぱり顔なじみができまして、行くことが大事だなというか、伊藤さん以外の方々ともいろんな雑談しながら、いろんなお話聞けて、特に何もすることがなくて、皆さんも頑張っておられるのですが、たまに「こん活動で良いのかな」みたいなことを聞かれますので、「良いと思います」みたいな感じです。そういうふうにコミュニケーションはよくとっていて、私も行くのがすごく楽しいです。こういった他団体との交流といいますか、先ほど課長さんが言われましたように関係人口を増やしていくという良い事例になると思っています。すごく若い方々が１月 22 日に 20 人ぐらい来てくださって、あっという間に丸太とか地元の人が切っていたやつを全部人力で運んでくれたりして、女の方も３～４人おられ

たのですが食事のほう全部請け負ってくださいました。こういった若い力ってすごいなあと力強く思いました。４月 10 日、植樹祭の時には 150 人ぐらいがバスで来るそうです。その時には食事とか、あと子供たちが来ますのでのクラフト体験とか、薪割り体験とか、あと整備している様子もやっぱり見てほしいということで、単なる植樹だけではなくて、事前にこういう整備をして植樹をするというプロセスを見てもらいたいというデモンストレーションもしたように言われていました。

門上保雄（里山アドバイザー）：北岡本自治会を担当しています門上です。北岡本は去年の３月ぐらいから自治会長であった、あったというのは交代したのですが、黒田さんから何度か電話がかかってきます。それで話をしていて、自治会長交代というのがあったのですが、元々は北岡本も森林多面的事業をやっていまして、２年目の申請の時に行き違いがあって断るというか、断るわけにはいかなかったのですが、その辺から少し地元の自治会とうまくコミュニケーションが取れなくなって、自治会長を下りられて、新しく足立さんという自治会長さんになりました。あそこは自治会で取り組むということなので、その方が一応責任者というか、担当者になったのです。その方は、今までやっていた活動にあんまり参加されていませんでしたので、上手くなかなかいかなくて夏ぐらいにリスタートという形で調整をしだしたというところです。本年度は結局、そんなことで何回かお会いして話をしたのですが、活動自身は進んでいません。ただ、関西まちづくり賞というのがありまして、都市計画学会の関西支部が毎年２地区ぐらい上げてやっています。ここで北岡本、今までずっと 100 年の森づくりという形で活動していたのが表彰されたのです。せっかくっていうのがあって、再度新しく自治会長さんになられた方と副会長さんの余田さんと足立さんと会って話をしたいということで、今調整をしているところです。

維田浩之（里山アドバイザー）：丹波篠山市の方の活動チームの担当をしております維田です。３ヶ所受け持たせていただいておりまして丸４年になります。

八幡共有山組合の方ですが、ここが一番アドバイザーとして関わらせていただいている活動地です。針広混交林の事業を何年か前にやられて、その後の広葉樹ゾーンの整備を毎年、組合員みんなでやるというのが定例活動２回というのがありまして、そして、それの方に参加させてもらって、どういう形で整備をすればいいのかというようなことのアドバイス、どういう樹種があって、どういう木を残して、どういう木を切ったらいいのかというようなことのアドバイスをさせてもらっています。それと合わせて令和３年度につきましては森林山

村多面的機能発揮交付金事業をスタートしたということで、まず事業計画の出し方であるとか、実際作業するところのエリアは、この範囲でやりましょうねというようなことのアドバイスをさせてもらって、事業報告の仕方であるとか、その辺のところのアドバイスもしながら、どういう木を残せばいいのかとか、どんな森にしていったらいいのかというようなことを現地にも二度ほど行かせてもらったのですが、その作業場所まで行くのに２時間かかるような所で、70、80 歳の人たちが行くというのは、すごい根性があるなと思って見ているのです。若い人達を活動に巻き込むにはどうすればいいのかということを考えていかなあかんのですが、なかなか難しいというのが今の現状です。今後の課題としましては、今そういったようなことです。

それから岩崎自治会ですが、これは当初、自治会長が非常に熱心に森づくりについて思われて、アドバイザーということで張り付けていただいたのですが、１年目は何人かの有志を集めて森づくりについて意識啓発みたいなことをさせてもらいました。その後、なかなか動きがなくて、何度かその会長さんにも話をかけるのですが、ちょっと忙しくてということで、具体的にいつ集まって、どうこうしましょうということまではいってないです。アドバイザーとして、こっちからどんどん言っていくと、なんかやらされてる感になるのかなと思って、基本的にはあんまりそういうスタンスはとらないようにして、言ってくるのを待ち受けていると、いつまでも言ってこないっていうところもあります。今年、新年になりまして、もう一辺アプローチしていこうかと。それと岩崎地区は人工林が多いので、森林経営計画なんかを立てる方向の話も今進めています。でも、それを受ける人がなかなかいないということもありまして、受ける事業者の方にもちょっとアドバイスしながら進めていければなと思っています。

それから上板井ですが、これはもともと自主的に活動されているところに入らせてもらったので、一番最初の発端は椎茸作りについてのアドバイスがほしいということでした。そこのところが済んでしまうと、あまり聞く事がないという形になってしまっているのかなというところです。一昨年、森の整備の時に行かせてもらって、整備の進め方にはちょっと問題あるのかなと思ったので、今年はそういうところをチェックしながら入ろうと思ったのですが、特に連絡もなく、今に至っているところです。年度内にはもう一回アプローチして、椎茸の発生する時期にもなりますので、活動はたぶんされてると思います。ちょっと連絡取りたいという状況です。

門上保雄（里山アドバイザー）：和田里山づくり協会の活動、これも私、門上が担当しています。今年度４月７日になりますが、今年度どんな活動をしていくかというのを会長の村上さんとお話をしました。４地区ありまして、城跡周辺のところ、その麓にあります和田小学校の裏山といいますか校山園、それから反対側の、南側になるのですが小新屋観音がある所の人工林、これはもう全くの人工林です。それから石金山の南側、北斜面のところの広い人工林と小新屋の観音のお堂周囲の人工林です。人工林はかなり大きく間伐など地元の人たちでできる話ではないので、それは業者さんにお願いしてというところです。ボランティア活動の人たちは参加してないです。

昨年度は城跡の石垣を下からでも見えるようにしようということで、ずいぶん間伐をして今見えるようになってきました。今年度、会長さんとお話していたのは、里山づくりの協議会の中にも和田小学校の校長先生も入ってもらって、小学校の裏の校山園をなんとかもっと使えるようにしたいという話がありました。今年度は、それを中心にやりましょうということです。総会があって、皆さんでお話しして、そういう形で行きましょうということになりました。（刈り払い機の講習会に合わせて）里山づくりを再度一からお話ししてほしいという話と、それから元々は和田小学校でオオムラサキの飼育をやってたのですが、それがもうどこにあるか分からない状態で、エノキの木があるねという形であったのですが、ちゃんとしたオオムラサキの飼育小屋を作ろうということでゲージ作りの活動をやりました。この時に僕はオオムラサキの話はよくわからないので、丹波の森公苑の森づくり課にいらっしゃる角谷さんが以前から関わりがあったので、ちょっと手伝ってくださいということでお願いしました。その後、校山園も鬱蒼としているので、もっと間伐しようと。チェーンソー講習会で講習を受けた人が「切りたい、切りたい」ということで、「じゃあ、どんどん切りましょう」という形で結構切ってもらいました。切って、かなり明るくなったので小学校の子どもたちももっと遊べるようにということで、ただどういう遊びをしたらいいのかわからないということで、これも今いらっしゃる山崎さんにお願いして、ちょっと森遊びの相談にのってもらえないかということをやりました。また 11 月には、その校山園の中にある、いろんな樹木があるのですが、樹木の名札をつけたいということで、これも下手に間違ってはいけないということで、山崎さんに事前に植物調査をしてもらいました。そのうえで 11 月になって和田小学校の５年生の子ども達に一緒に樹木に名札付けをやりました。また昨日ですが 26 日は伐採のときにコナラの木とか、アベマキとかクヌギとか、いわゆるドングリの木があるので椎茸作りをしたらどうかという話が前々からありまして、それの子どもたち３年生ですけども５班に分けて、それぞれ担当の里山づくり協会の人が担当しながら、ドリルで穴

を開けて植菌したということです。今年は後2月 12 日に最終の城山周辺の登山道があるのですが、登山道で石垣が見えるのです。石垣を見えるビスタを阻害している木を切っていこうという話を最終でやろうということになってます。

山崎春人（里山アドバイザー）：山崎です。担当しているのがバオマスフォーラムたんばのごんげんさんと下三井庄地区ということになっています。バイオマスフォーラムたんばの方は動きがすごく鈍くて、業を煮やして、実はいろんな植樹を、子どもたちが遊べるような木を植えようということで計画していました。今鹿柵というか、ネットが張ってあるのですが、それがだいぶ破れてダメになっているので、私全部資材を買って「一緒にやりましょう」って言ったのですけど、「いや、こっちでやります」って言われて「はい、わかりました」って言って、「できたら、また木は私の方で山守したりして持って行くので」と言っていたのですけど、ちょっとそのままに今になっています。運営が、ごんげんさん自体は毎週のようにやっているのですが、運営自体がメインになっていた方じゃなくて、お母さん達が中心になって、今ごんげんさん自体を続けておられるもので、親子で来ているのでそんなに作業ができないような感じになっています。ただ、途中で一回、巻枯らしの間伐をし、少し木を切られる状態にはなっています。その後の切る作業まではまだ行ってない。子どもらと一緒に皮を剥がす作業したりとかっていうようなことをやって、一応人工林が一部あって、そこの木が大きくなって混んでいるので、それを「もっと切ってくれ、切りましょうよ」っていう話はしているのですけど、結局あんまり動いてない部分があって、ちょっと大変になっています。

それから下三井庄地区の方ですけど、実は、この中に三つの団体があり、一つは自治会の山の部分と、それから遊びの学校とかってやっている「子供の森」と称しているところと、さらに下三井庄里山保全の会っていうのがあって、その三つが合同になって里山づくりをやろうということで進んでいます。

自治会は最近高齢化がどんどん進んでいるもので、実は日役に入るのがなかなか大変になってきて、区の持っている山林の中に一部雑木が残っているところ、ほとんど植林されているのですが、一部雑木が残っているところがあって、そこは高齢者というか、しんどい人は雑木を切る。雑木も手に握れるぐらいのものを切ってもらって整備をしていって広葉樹化していこうという動きが出てきました。それから、ほかの場所は全部、森林経営計画が入っていて、一つの地区が今終わったので、そこが終わってしまうと次は里山保全の会で手が入れ

られるかということです。そこも広葉樹化、それもコナラとか中心でできたらという計画が今やっと進みつつあります。

それから「子供の森」をやっているところは、今ナラ枯れ木の処分で追われています。それが太くて、大きいものですから、なかなか倒しにくいのもあって大変で、私が行って切っているのですがなかなか大変です。切りかけたら枝が落ちてきたりすることもあるので、とにかく「子どもに危険なこともあるし、早く切ろう」と言っているのですが、なかなかこれもメンバーが揃わない部分があって、一人では私もできないので苦労しています。それから、そこについては一応だんだん今の人工林を切って、ここも広葉樹化をしていこうということで計画は進んでいるのですが、やっぱり人がなかなか難しいというようなところはあります。

それから里山保全の会の方は、これはさっきの多面的機能発揮事業で山裾を中心に切っています。ここは今、その切った木を出して薪づくりをしていて、今年は薪がめちゃめちゃ売れています。売れているのは、一つはキャンプブームがあって 30cm 薪が今欲しいという話で、それも広葉樹じゃなくてスギ、ヒノキの方が素人は燃やしやすいからということで、薪作りを今一生懸命やっています。それから広葉樹の薪もいろんなところから要望があって、広葉樹だけ欲しいという人もいるので、たまたま目につくところにおけるようになった無鹿さんというお店があるのですが、その横の棚に全部置かせてもらって販売することになって、名前がちょっと売れて来たっていうとおかしいですけど、それが順調に行っているので忙しくなっています。だから、そっちの方は順調に一応順番に多面的でやっている部分が進んでいるので、そこは特にコシアブラとか山菜残そうという計画で私が全部マークしてまわって、「これ切るな」「これ残しましょう」と言ってやっているので、切らなかったら今結構増えるものですね。その辺がわかってきた感じで、みんなもそれが楽しくなっている部分があるかなと思います。

司会（門上）：あと、もう一つ残っているのは生郷里山づくり懇話会で担当は宮川さんです。生郷は、僕も昨年度までは会議に出ていたのですが、今年度はうまく日程が合わなく、出席できず、今年度どういう状況か把握はしていません。水分れ資料館の裏山、道路の反対側ですが、２年ぐらい前から伐採をして鹿柵も取り付けて、今度はさらに奥の部分、神社の裏部分の森をやっているはずです。昨年度、丹波市の補助事業で機械なんかも購入していると思います。活動はしていると思います。ここも事前に資料をいただいていなかったので、おおまかな話だけで終わります。

アドバイザー自己紹介ですけども、久保田さんも自己紹介をお願いします。

久保田誠司（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）：本年度から里山づくり協議会の担当をしています久保田と申します。いろいろご迷惑をおかけしていますけども、また来年度以降も継続事業だと思いますので、よろしくお願いします。

司会（門上）：この丹波の里山づくり促進事業実行委員会というのは丹波県民局の農林、丹波篠山市、丹波市、それから兵庫丹波の森協会が実行委員会のメンバーになっています。今日アドバイザー会議をしたいということで、もちろん皆さんの近況報告もお聞きしたかったのですが、来年度も本年度と同じような格好でいくのかというところが、僕自身も心配で、こういうコロナ禍の中でなかなか集まりにくいというところもあります。それからアドバイザーの皆さんから資料の３枚目の今後のあり方についての話も少し伺っていますので、まずは来年度どんな状況になるのかを雑賀さんから報告していただけますか。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：基本的にアドバイザーの事業については今年と同じ引き続きということで、予算的にもほぼ同額の予算は今のところ確保しております。いろんな事業がコロナで中止になったりしたものを補助の方で、チェーンソー講習会だとか交流会とか里山づくりの体験促進事業の方が、かなり予算が昨年も下がっています。今年も多分だいぶ下がると思います。そうすると繰越ができてきまして、ある意味何か拡充的にやろうと思えば予算的には何とか運用できるのかなと思っているので、もし何か使うようなことがあればできるかなと思っております。

アドバイザー以外は先ほども申し上げましたが、外からの関係人口も増やしていこうということで、その中でモデル団体も受け入れが出来るような何か経済活動にも繋がるようなことを関わってできる、そういう切り口もあればとは思っております。今のところは、そのような状況です。予算的にはありますので、引き続きということでお願いしたいと考えています。

司会（門上）：それを受けて、本年度の話も含めて来年度どんなふうにアドバイザーを我々進めていったらいいかなというのは、それぞれ地区の特性もあって、各々違うと思うので、先ほど現況の話もいただいたのですが、事前にいただいている意見の中で、まずは私の意見なのですが、モデル地区での初期的な活動方針とか活動計画、これをみんなとワークシ

ョップを開いて「こうだよね」「今後こうしようよね」「こんな事もあるね」という意見聴取をまとめられたというのは、やっていて意義があったと思います。１年目は現況を見させてもらいながら、２年目は活動計画をまとめられたというところまでは、私がやっているアドバイザーの内容としては意義があったと思っています。その後の活動でいうと、みんな一生懸命やっているから時々呼んでくれたら、それはそれでいいかなと思うので、今後どうしたらいいかなというのを思いつつ、今日皆さんに集まっていただいて、それぞれご意見伺いたいなと思っています。

維田さんは、この事業を起こす時から県民局でいらっしゃって、今実際にアドバイザーもされていますので、一番お話が的確に伺えるかなと思います。皆さんの思いもここに書いていますが、今後どうしたらいいですかというところですが。

維田浩之（里山アドバイザー）：先ほどお話させてもらったようにアドバイザーの立ち位置というのが私、行政マンとして普及の方の事業とかもずっと取り組んできて、行政マンの立場から「ああしましょう。こうしましょう」とか、どんどんアプローチできるのですが、今回そういうのをずっとやってくる中で人頼りにして予算、補助金があればするよみたいな場合が結構多いですよね。だから、そういうやり方は良くないということで、今回、人の支援はするけど、お金の支援をしませんよという形のアドバイザー事業というのを立ち上げさせてもらっていたのですが、実際には、八幡共有山組合みたいなところは「お金はないのか」とかいうような話になるので、森林山村多面的事業の紹介で進んでいるわけですが、何らかのお金の支援というのは、いろんな方策があるので、そういうアドバイスはしたらいいと思う。一番大元は自分たちがやろうと思っているのかどうかという、やりたいという気持ちをどう盛り上げていくのかというところのアドバイザーにならないといけないなと思っています。この事業に、やろうと思ってモデルに手を挙げてくださった方はやる気があるんだろうなと思って、そういう見方で見ていたんですけど、やっぱりあんまりアドバイザーがいるという存在が意識してないような感じもするのかと思います。だから、もうちょっとアプローチをしないといけないと思うし、そこら辺の微妙な関係というのがあって、アドバイザーは難しいなと思います。でも逆にモデル地区だけで考えるとそうなんですけど、実際は、私が丹波篠山市の方の仕事を手伝わせてもらっていると、丹波篠山市としても里山づくりとか森づくりの活動を増やしていこうということで、いろんな事業を立ち上げたりとかしています。その中でやっぱりあちこちにやりたいという人たちがいるのが見えてくるんですね。そういう人たちに、もっともっと支援してあげるような

形で関われたらいいなと。たまたま市の職員、純粋な職員じゃないんですけど市にいるので、そういうところの接点があるから多少は関われるのですが、もっと普通の日でもアドバイザーとして「行くよ」というような形で応援してあげたら、もっとその活動も活発にできるのかなと感じています。

モデル地区のためのアドバイザーではなくて、丹波地域の里山づくり活動をしているアドバイザーという位置づけで、何か活動できるような仕組みにしていただくと、もうちょっと広がっていくのかなと今感じてます。ただモデルという風に形にしていかないといけないというのが実行委員会の考え方で、どうしてもそうせなあかんのやと言われると、そこらへんはそれで考えるのですが、それよりも丹波地域にいろんな活動が広がってますよというのを、もっともっとアピールする方がこの事業の成果があるのかなと思うので、その辺の方針転換ができたらいいかなというのが②のところに書いてあることかなと思います。

それと他との活動地との交流というのも、アドバイザーとして知り得た情報なので、良い事例とかがあれば、それぞれの活動地に紹介したりとか、門上さんがされていたドングリの会とか、そういうところと接点を作るとかということで、また先ほどの関係人口の作っていくきっかけにもなるのかなと思うので、そういう意味でもいろんなところを繋げていけるようなアドバイザー活動もいるのかなと思っています。

司会（門上）：先ほど課長からも話がありましたように、来年度も本年度と同じ予算があると。今、維田さんがおっしゃったアドバイザーがモデル地区だけにこだわる必要もないだろうみたいな話も含めて、地元というか地域がやりたいと。だから、ぜひこういうことで今度は椎茸作りをしたいのでアドバイザーを教えてくれないかと。植樹祭をやりたいがどうするのかというようなところで話がくれば、こっちも今までのいくつか経験がありますから話がしやすいのですが、北岡本にしろ和田にしろ私が行ってる所は地元が割と積極的ですけれども、そうでもないところもあるという感じです。たとえば、生郷で参加したときには「会議は定期的にやってくださいよ」「初めてなんだし、定期的にやりましょう」ということで、定期的に行って、その会議の中で意見交換があるところは少しずつでも進むんですよね。活動組織がなんかはっきりしてなくて、モデル地区の時の選定がどうだったかというのは私は気になるのですが、最初の１年目の６地区というのは、それぞれ活動実績があった上でのモデル地区設定だったんです。２年目の時の４地区選んだ時はモデル地区となるような地区になりたいというか、モデル地区ではないというか、そういうところもあったのでは。それぞれの本当に地域が求めている、あるいは地域がこうしたいと思

っているような部分について、我々アドバイザーがうまく機能してるかなというのが非常に私としては心配というか危惧するところです。せっかくアドバイザー費として予算も確保してもらってやっているのですが、なかなか充分に応えられないなというところもあります。それはどうなのかなと気になるところです。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：非常に行政的な部分がありまして、当初モデル団体、私も当初は話を聞くと２団体とか３団体とか本当に広告塔になるような、すごく取り組みをしているところを選定してということだったんですが、いろいろなことがありまして応募してもらえた当初の６団体ですね。これに関しては、取り組みもそれぞれ違うということで、なかなかここということも絞れなかったと思うんですが、認定してきています。

現状として 10 団体あって、私もその部分が非常に気にはなっています。たとえば、みなさんにお願いしています岩崎自治会にしても、本当にモデル団体なんだろうかというところは非常に疑問を持ちながらだったのですが、そういったところを支援することによって、本当に平松とかいろんなすごい団体が出来てくるのであれば、それはそれで一つの効果なのかなと思っています。このアドバイザー、先ほどもちょっと維田さんの話もありますけど、なかなか地元、モデル団体からすると、どっちかというと押しかけみたいなところがあるものですから、あまり認識というか、強くもっと使ってやろうというところがないのかなというのは思います。あと見守っていく、情報を収集するという形で入っていただくのも一つだと思うのですが、なかなかそれがいけるところと平松のようにその段階になっているところは困ったときだけ協力、支援するという形がいいと思います。そのほかをどういうふうにしていくかですね。地元から声がかからないとなかなか行きにくいところがあります。

司会（門上）：地元が、アドバイザーに連絡ができるところに対しては、「今度こんなことをやりませんか」という話ができるんですが、音信不通になると全然何も進まないというか。

久保田誠司（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）：モデル地区を続けますかという意向を聞いてもいいかもしれません。モデル地区じゃなければアドバイザーを送らない。

司会（門上）：今後もやりますか。アドバイザーは必要ですかと？

内田圭介（里山アドバイザー）：モデル地区ではなくなっても活動は続けられるわけです。モデル地区なんて、今はアドバイザーを送るだけですよね。だから要はモデル地区になるかならないかは、アドバイザーがいるかいらないかの話で。

維田浩之（里山アドバイザー）：モデル地区は勧めてなってもらってるっているという、市の方から声をかけてなってもらってるという団体もありますし、そもそもはモデルとして、みんなに見てもらって、こんなことできるんやというのを知ってもらって、それを広げていくというのが最初の狙いだったんです。なかなか進まない。岩崎なんか全然進んでないのですが、進んでないなら、もう手を切ったらいいやないかと言われると、実はあそこは市の事業で広葉樹林化の皆伐事業ということで、どんどん皆伐しています。その後がほったらかしてやってるので、それはダメでしょうということで、やっぱり地元にその辺の森づくりを意識づけて、自分達からいい森づくりをしようというような意識啓発していくということがモデルになったいうことのきっかけがあるわけじゃないですか。それじゃあ、もう切りましょうよ、あそこも裸地のままほったらかしになってしまうわけで、それは良くないと思います。やっぱりアドバイザーとしては、そこをいかに盛り上げて、いい森づくりができるか、見本になるような活動ができるのかというところをアドバイスしていかないといけないので、矛盾はするのですけどね。向こうから言ってこないとアドバイザーとしては行かないほうが良いというのもあるんだけど。気持ちをくすぐるという、そこら辺の必要性はあるのかな。だから「もうしません、もう勝手にしなさい」というのは、今モデルとして出ているところを切り離すのはどうかなという気もするんです。箸にも棒にもかからなくなったら切り捨てないと仕方ないのかなと思います。今はまだそこまでは来てない。まだ可能性もあるし、可能性を出したいという思いはあります。

山崎春人（里山アドバイザー）：熱心な方がいらっしゃいますしね。チェーンソー講習、私、丹波篠山市で関わってやりましたから、その時も一生懸命訴えてはったんですけど、だから、あれがうまくグループ化できるようにということを考えながら、いろいろプログラムを進めていたんですけど、動いてない。そっちの方もね。だから切りたい人はいるんですよね。だけど、そことちゃんと岩崎とマッチングができなかったりとか、というようなことになっている部分が難しいですね。

内田圭介（里山アドバイザー）：担当外しても良いかなと思ったりもするんですよ。正直、まず里山アドバイザーって、こういう人たちがいる。こういう特技、皆さんそれぞれあると思うんですよね。このアドバイザーはこういうことができるというのをまず一回発信した上でそのモデル地区の人たちが実際に何が必要かっていうのをちゃんと作ってあげるというか。それはもちろん担当っていう形の担当はいるのかもしれませんけど、この里山アドバイザーのプロジェクトチームとモデル団体というのが、もうちょっとうまくリンクしていくといいのかなっていうのが正直ありますよね。

森の学び舎の人たちも僕以外、維田さん知ってますけど多分アドバイザーって知らないです。けど、ひょっとしたら、もっとこういう人たちに声かけたら、もっと活動が広がるかもしれないし、補助金に困っている人がいたら維田さんに相談しに行くとか、もう少し里山アドバイザーでこういう人たちがいるっていうのをちゃんと一回発信した方がいいような気がします。

司会（門上）：宮川さんは今日はお休みですが、（里山づくりにアドバイスできる人は）ここに集まっている６人だけではないと思います。それぞれ特技があるし、今回たまたま和田地区で子ども達と一緒になって活動を広げようという話になったとき、私はたまたまですけど山崎さんを知っているから、ちょっとお願いしたりとか。今、内田さんがおっしゃる通りで、それぞれ特技があるし、求められている特技を充分に発揮してくれるアドバイザーさんに行ってもらうというか、派遣というか、そういう形になる方がいいのかなと。

それだと今現在の里山づくりアドバイザーさん以外にもいらっしゃるので、それぞれまちづくりの専門家登録というのは、「どの地域に行けますか？」あるいは「どういう特技がありますか？」というリストを作るんですよね。そんな中でそれを見ながら「この人に来てください」という地区もありますし、地区から相談を受けたときは「この人どうですか？」という形で話ができるんです。もっといっぱいいらっしゃるので、ただそれとモデル地区とどうするかという、モデル地区だけが希望するわけではなくて、ほかの地区も希望するわけで、維田さんも言われていたけども、モデル地区専属のアドバイザーでなくてもいい。

内田圭介（里山アドバイザー）：結構声多いですよね。里山づくりしたいけど、どこに相談していいかわからないという声。研修会開いたら、そういった声が圧倒的に多くて。

司会（門上）： 研修会に来ている方って、どんな人が来られてるのですか。

内田圭介（里山アドバイザー）：年齢層はもう本当に、それこそ 30 代の親子連れから、おじいちゃん、おばあちゃんまでいるんです。だいたい高齢者の方ほど山林を所有しているけど、どうしたらよいのかわからないという相談です。若い世代の層は山で遊びたいけど、どこで遊んでいいのかわからないと。大きく分けると。中堅ぐらいが自分でちょっと里山整備してみようかみたいな感じですね。だからフィールドがない。里山づくりをどうしていくかというノウハウ、そもそも何から始めていいかわからない。初歩的なところから、みなさんがつまずいてらっしゃるので、なんかハードルの低い、一番関わりやすいのは、こういうアドバイザーの方なのかなと思っています。もちろん実動何日で動けるかというのは予算の関係上はあると思うのですが、維田さんがおっしゃったようにモデル団体に限らずというのが今後必要になってくるのではないかと思いますし、逆にモデル団体さんはモデル団体さんとしてあるんですけど、アドバイザーとしてこういう人たちがいます、この人たち派遣できますよという、そこら辺まで手を差し伸べてさえいれば、実際に活動するしないというのは本当に団体さんの意向がないと、やっぱりそれはうまくいかないと思っています。そこで入れ替えするのか、できるのか、それとも継続するのかというのはもちろんちゃんとした議論というのは必要になってくると思うんですけど、そういった意味でアドバイザーも今のあり方からちょっと発展していく必要あるのかなという気はします。

司会（門上）：その研修会にどんな人が来ているのか、何かを習いたいとか知りたいとかで来てるわけですよね。そうするとモデル地区というのは本来モデルとなる里山でしょう。だから、たとえば研修会で「こんな所で勉強したいんだ」って言ったら、「あっ、それだったらどこどこの地区へ行って、活動日はまた聞きますけれども、それで一回見ませんか」とか、あるいは「参加しませんか」とか、その辺から関係人口も増やせるかもしれないし。そういうところに行こうと思うと、どうしたらいいんですかね。内田さんから以前話を聞いている時はそういうプラットフォームを作ったらどうやみたいな話は聞いてます。

内田圭介（里山アドバイザー）：必要ですよね。せっかく促進事業として研修会前にしてアドバイザー前にしてというのをやられているので。研修会に来ても実際のところ行って終わりなので、だったら促進事業で成功した人がいて、こういうことできます、こういうところ行ったらこういうところに、たとえばホームページに行くなり何なりして、行った時に

はこういう団体があるんだとか、そういった情報って、やっぱり今って点でしかないので、やっぱり横つなぎしていくのが手段というか。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：今までどっちかっていうとそれぞれ個人戦でやってますよね。今回、来年から団体戦という形とか、団体で交付をしていくという形にして、支援団体も 10 団体にこだわらずに、10 団体の支援プラスほかの新たにやりたいという所があるのであれば、そういった経費を仕様の中で追加していく。それとあと今おっしゃられたアドバイザーをもうちょっと前面に PR しても、今年のアドバイザーはこういう方で、そのモデル団体を今まで PR するという形だったんですけど、その裏にアドバイザーって全然表に出てきてないんです。そういったものを、たとえば森のかわら版もそうですし、来年はウェブ版といいますか、そういうような形で出そうかなと。また、ご意見を聞きたいと思うんですが、森のかわら版も市の広報に入れてたんですけど、市の広報だと他に混ざっちゃうのかわかりませんけど、今年ちょっと丹波市さんから、なかなか広報は難しいと。いっぱい入れなあかんので地域からの苦情も多いということで、今年一回この１月９日に新聞折り込みに入れさせていただいた。そうすると連絡があったり、電話があったり、いろいろ反響もあったりしたので、そういう新聞折り込み、来年はウェブ版に変えていくか、ウェブの方が効果があるのか、中には一回ぐらい折り込みを入れた方が良いのかもしれないのですけど、そんなようなことを考えています。その中で、たとえばアドバイザーさん、皆さんが了解得られればなんでしょうけど、どうしたらそのアドバイザーの活動に焦点を当てているというようなところもあってもいいのかなと。来年、今年はちょっと今すぐは難しいかもしれないけど育成研修会の中でアドバイザー、来年もしそういう事業で組めれば、来年の育成研修会ではこういうアドバイザーがいますよという資料もお渡しできれば、いつでも相談できますよと。その辺の経費を乗せれるかどうか。それと対応いただけるかどうかというところです。先ほど団体戦でやろうと思うと、多分結構この会議、やっぱりある程度打合せなのか、ウェブ会議みたいな形でもできると思うんですけど、そういったものが必要になってくるのかなと思います。

　あと１点、我々も結構お願いしているんですけど、活動に全然関わりがなくて、こういう報告をいただいて初めて「こういうことをやってるんだな」っていうような状況なので、去年は担当していた尾畑にいろいろ聞いた時には参加させていただいていたと思うんですけど、また声を掛けていただくというか、その辺も共有できれば、全部は対応がさすがに無理かと思うんですけど関わっていきたいです。それと来年当初に、あくまで提案ではあります

けど、一度アドバイザー、各団体に対して、こんなことができますよというものを一辺ぐるっと回ってもいいのかなと、10 団体。我々が中心に説明する形で、こういうアドバイザーがいますよということで、集まってもらってもいいんでしょうけど、なかなか集まれなければ各地域に回っていってもいいのかなと思います。こういう専門のアドバイザーいますよっていう資料でもいいのかもしれないです。最初にそういうことをしていかないと、もう一度アドバイザーというものをインプットするというか、モデル団体にも。

維田浩之（里山アドバイザー）：ケースバイケースでね。団体によっては、もういろんなことを工夫してやっている団体もあるし、岩崎みたいにまだ団体になってないようなところもあるんです。それを出しても、やっぱりまず自分たちの足場が固められてない所は何を言ってもやっぱり動かないと思うんです。まずそこからやろうと思うし、情報というのは別に言葉で言った方がインパクトあるんですけど、情報として資料、ペーパーでもこんな人がいるんだというのは流せば、それでいいと思います。

それよりも話が元の方になっちゃうんですけど、市役所と実行委員会との関係というのがどこまでうまく出来ているのかなというのが、市の方に行っていて心配になっているのが、今言ったかわら版のことにしても育成研修会にしても全然市の方で情報がないんですよね。僕は毎日仕事に行ってる訳じゃないから、そこのタイミングが合わなかったのかもしれないですけど、市はこの事業は県がやってるみたいな感覚でいるので、「いや違うで」って言うんですよね。どうもそういうきらいがあって、かわら版もいつになったら出るんかなとずっと気にはなってるんだけど、今聞いて初めて１月９日に新聞折込に入っていたっていう話で、それさえも課の中で話題にもならないしね。そういう実行委員会で取り組んでいる事業が、市の担当の中に充分伝わってないっていうこと自体が、この実行委員会としては進め方にもちょっと問題があるのかなと思って。丹波市なんかどんな感じなのかなって、ちょっと知りたいと思ったんですよね。

久保田誠司（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）： 同じようなものです。丹波市は全然興味ないです。忙しくて、それどころじゃない。

維田浩之（里山アドバイザー）：だから忙しいから、あんまり言うたらあかんやろなあっていう気遣いもあるんだけど、やっぱり情報共有というのは常にできるような、簡単でもいいから、メールでもいいじゃないですか。「今、こんなことやってますよ。しますよ」ってい

うようなことで、担当が今、実行委員会でどんなことしてるんやなというのを自分らも実行委員の一人として感じてもらえるようなことをしていかないと、なんか県がやってるみたいなことになって、丹波篠山市の場合、特にこの実行委員会の補助金ももらって、市の事業をやってるっていうところもあるので、そこをもっと連携しておかないと、お金を出して、それをまた返してもらっているみたいな形になってるので、実行委員会の存在価値が弱いなと思って今感じています。だからアドバイザーどうこうもあるんだけど、実行委員会として、もっと表に出てくるような。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：その辺はちょっと耳の痛いところがあるんですけど。それもあって、将来早く下ろしたい。全部農林で持っていると、さすがにちょっと回らない現実もあります。どうしても委託事業になってしまうと、事務局対委託先という話になってしまって、なかなか幹事会も日程がとれなかったりとかして、それはやる気次第なんでしょうけどね。その辺は感じているところではあります。そこは、もう少し幹事会を定期的に本来すべきなんでしょうけど、なかなか日程がなかったのが原因かなと思います。

久保田誠司（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）：本当に今年初めてなので何が何やら。とにかく前に進めるのに、ほかの仕事しながら前に進めるのに必死な状態で申し訳ないです。全然連絡ができてなかった。そのせいもあるんです。

維田浩之（里山アドバイザー）：もう１点いいですか。すごく下世話な話なんですけど、僕は今までずっとサラリーマンしてきていたので給料もらってるから、どんなことでもしますよと動き回れてたんですよね。今は一応アドバイザーということで、アドバイザーのお金をいただいてるんですけど、１地区 20 万円という形でもらっています。その 20 万円の仕事になってるのかどうなのかなというのが全然わからない。その辺がフリーランスでやっておられる方っていうのはどういう、人それぞれなんでしょうけど、お金の取り方をするのかなっていうのもあって。とりあえず今はモデル地区１地区 20 万円というので形ができてるんだけど、たとえば、どこにでも行きますよっていうアドバイザーになったときに、それはどういうふうな形。まちづくりの場合は要請があったら、その１回になんぼっていうのがありますよね。そんな形になるのか、どんな形でお金がいただけるのかなというのがよく見えないので。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：そういうやり方の方が良ければ、委託の中で派遣、実際に１回につきいくらみたいな、そういう契約、それと報告書をまとめたりする別の部分もあると思うんですけど、諸経費の部分があったり、そういうような形が取れると思うんですけど、最後変更で最後回数によって変更かければ。ただ予算がありますので、予算内にはなるかと思います。

司会（門上）：回数で言うと、そうなっちゃうんですけどね。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：あくまで設計上の回数であって、ある意味それ以上はいかないといけないかなというか、その回数はと意識されていると思うんですけど。契約上は設計なので成果が得られれば、別にその回数じゃなくてもいいのだとは思うんですけど。

司会（門上）：僕は丹波の森研究所で、森協会が委託を受けて、全体見て、それぞれのアドバイザーさんに派遣する部分と、取りまとめの部分とあるんですけども、僕自身アドバイザーでもあるので、北岡本みたいに地域ではっきり言ってぐちゃぐちゃしてて、もうほっといてもいいんですけれども、アドバイザーとして費用をもらうのも心苦しいしですし。もう一つは取りまとめについても、僕はどっちかというと計画の人間ですから、一番最初に言ったと思うけど３年間はやりますよというのは言ったと思うんです。最初の一年ずれてるので２年、２年のトータル３年なんですけれども、森研究所として皆さんの内容を見ながら、こうだなああだなと思いながら取りまとめをしてきたんですけれども、今それぞれのアドバイザーさんで行ってもらう分に関して言うと、まちづくりのアドバイザーみたいに１回行っていただいて報告書を上げてもらって、それをつづったら取りまとめになるわけで、そういう形の方が僕としては楽かなと。仕事面もそうだし、気持ち的に楽かなというのが非常に大きいですね。

山崎春人（里山アドバイザー）：それは私、去年ごんげんさんの方のことで、もうあんまり動かないので、もう要らんわっていう極端に言えば。もう別に出してもらえなくてもみたいな話をちょっとしたことがあるんですけど。こっちは「モデルになってるから、こんなことしましょうよ」と言っても、動いてもらえなかったら結局意味がなくて。だからポール買

った時もポールとか鹿柵の点検のやつも、そのお金出るんやったら、それ使って、もう助成金じゃないですけど、代わりにそれ出しちゃえということで、出す言うたからもらいましたけど。だけど、その後作業全然進まないし、実はあそこ登記がまだなんですよ。それもお願いをずっとしていて、でも登記が終わっていないという状況のままで、元がそのごんげんさんの上の山林まで含めた形であったのが、ごんげんさんのあの場所だけになったので、またすごい全然状況が違っていて、すごく動きにくいんですよね。向こうも動く人間もなかなか大変っていうふうなこともあって、ごんげんさんということを毎週土曜日回すだけで、今目いっぱいになっているところがあるので。「俺、一緒に作業するから」と言っても来ないので、だから返しますって言ってたんですけどね。だから、そういう意味では今の額をもらっていて、ほんまにっていうのは難しい。

それから、もう一つ、下三井庄の方は３グループあるもので、それぞれの対応に実はなっているので、そこは結構大変は大変なんですけど、だから最後の今年のまとめ上げるのもそれぞれ別々に対応して、もう一緒にやっても全然意味がなかったりする部分があって、ただ下三井庄の場合は農地・水・環境のところで表彰を受けたので、一定の効果は里山整備というところであった。農地・水・環境で表彰されたのも一応一体的に全部考えて、そのかいぼりやったりとか、そんなものも含めて里山のいろんなことの中で農地・水・環境を考えるというようなことで下三井庄が表彰されたので、それはその木を切るっていうことも含めての部分を全部入れ込んで、その時のアドバイスもしたんですけど、申請の時の、里山全体で農地・水・環境の所へつなげようというような話をしてやったので、それはちょっと面白かったです。だから、さっきの経済的なことも含めてですけど、きっと丹波って里山がある程度有名になれば、それだけで人は来る、極端に言うと。と実は思っていて、だからいろんな形でそれをやっていく。それから私は今、山菜屋やってますけど、それは近所の２軒ほどが中心になって山菜を卸してるんです。やっぱり、そういう意味ではちょうど東北に負けないぐらいの種類はあるけど、量は少ないというのがあるかもしれないけど、丹波へ山菜とかを目当てに来る人が出てくれば、また変わるやろうと。それは里山の効果やと思っています。だから一生懸命「コシアブラを切るな」と言いまくっているんです。なんかそういう意味での里山整備するだけで、ある種の経済効果って絶対出てくると実は思っています。だから、やってる部分があるんですけどね。だけど、そこがまだ完全には結びついていない。だから里山っていうのを考えた時に、やっぱり衣食住全部がそこで、ある意味では揃うっていうとおかしいですけど、そういう循環をどうやってやっていくかということも問題なので、それがどこかで見える形になったら、今うちの下三井庄は薪を作っているので、その薪がちょっと

でも回ってるっていうことが最近出てきています。それはそれでまた面白いなって思っています。それがもうちょっと見える化したら、その里山としての人気って言ったらおかしいですけど、丹波市が里山地域でそういうことが回ってるということが見せれるようになったらいいなと思っています。それが経済が回ることになるのかなということやと思っています。だから山菜の問い合わせ、めっちゃ多いです。教えてほしいって言う人もめっちゃ多い。それをちゃんとやろうとしたら、里山整備がされていれば、いっぱい出てくるということははっきりしています。だから、そこまで含めて里山の循環的なものを作り上げることがきっとモデル地区なんだろうとは、ずっと思ってるんです。下三井庄の中に逆にいるもので、ちょっと難しいところある。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：そう言ったところをさっき言った複数で対応していく。一緒に行く人は別に情報を見て写真撮ったりして、あとそれを出していく。それが本来は森のかわら版であったり、いろんな情報発信だと思うので、それにつなげられるようになんか考えなあかんのかなと。ウェブ版にしたときにそれぞれの団体のページとかそういったものが、ただああいうのを作ると、あと更新がちゃんとできるかどうかというのがすごく継続性という問題になってくるのですが。

維田浩之（里山アドバイザー）：ちょっと話が違うかもしれませんが、丹波篠山市で今の麒麟の森整理事業っていうのを市独自の事業としてやっていて、これって里山実行委員会がやっているのでいいんじゃないのかと思いながらも、市が頑張るっていうんやったら、そこは支援して今進めているんですけど、その中でも研修会は、森づくりは人づくりっていうのをテーマにしてやりましょうということで、とにかくそのお金を出してやったんじゃなくて、そこにどんだけ人が関わって、その人がそういう意識を持ってもらえるようになるかということが大事なんで、そういう研修会をする森づくりの整備事業をしようということで、今進めているんです。そこは二次林があったり、人工林があったり、竹林があったりするので、それぞれの特性を生かした森づくりの仕方というのは、参加者に伝授していくということで、今言われる山菜であったりとか、コバノミツバツツジの森であったりとか、いろいろその特徴を生かして、どういう森づくりができるかということを皆さんにお伝えしてるのですが、それが市独自でやってるのがこの実行委員会でやってることと並行している。それはそれでいいんですけど、そこらへんがもうちょっと連携してもいいのかなというのはふと感じるんです。

もう一つ、市長はその研修会に 10 人とか 20 人とか、なんでそんな少ないだと。もっとたくさん来させられへんのかと言って、実際、現地での研修にそんなたくさん来ても困りますよという話をするんですけど、じゃあ何を求めているかというと、一部の人だけがこういうことやってると知ってるのはあかんやろという思いで言われていると思うので、それやったらもっと広報活動しないといけないやろうと。だから丹波篠山市でいろんな活動をやろうとしている人、やっている人たちがあるので、そういうのを広報であるとか、いろんな形で PR。だから、このかわら版もそういう形で生かせれるのと違うかなという話もしてるんだけど、やっぱりかわら版ということに対する市の意識もちょっと薄いかなというのもあって。だから、とにかく広報というのは大事だなと思うので、もっともっと広く。それで話がウェブ版の話になるんですけど、里山づくり実行委員会でフェイスブックを立ち上げているんですよね。僕はそれの管理者になっていて、もう退職してるから触りたくないので、ウェブ版を生かすのだったら、それを生かしてもらったらいいのかなと思うけど、結局その担当が変わっていくと、それを管理する人を変えていかないといけないっていうのと、それと当初作ったときに情報発信する時に副所長の決裁をもらわなかったら出されへんとかってなると、結構出すのが、本当にこういう研修会しますよとか、そんな話しかできなくて。ここの活動に参加したとき、こんな感じでしたよとか、もっとフレンドリーな情報というのを簡単に出せないっていうのは、ちょっとネックかなと思っています。でもフェイスブックを生かせるんだったら、そこをもっと自由に動かせるようにしていただいたら、ウェブ版としての活用方法があるのかなと思うんですよね。

あるいは民間ベースでそういうことをやっていく方が楽しくできるのだろうなと思う。さっきのプラットフォームみたいなところを管理する民間なんか持ってもらえるような形で、委託費を出すっていう形ですね。

雑賀謙彰（丹波農林振興事務所森林課課長）：今模索しながら、それが出来ればもう少し動きがしやすくなるのかなと。それでいろんなアドバイザーさんとか、その活動自体も今、山崎さんが言われたような活動がパッとモデル団体、下三井庄地区を見たら、それが出ていて、今こんなやってる、山菜やってる、行ってみたいなという繋がりが、行けば顔が見えるというのも一つ今最近ありますから、アドバイザーさんであったり、地域の方の顔を出して良い方は出させてもらうと割といいのかなという。そこまでをどこがするかというと、またそれを事務局でってなると、またたぶんすごく時間が遅くなったり、野暮ったいものになってしまうパターンになってしまう。

維田浩之（里山アドバイザー）：情報提供ですけど、さっき言った麒麟の森整備の中で、二次林、人工林でやっていて、今度２月に竹林の整備をやるんです。それには、それこそ平松の伊藤さんに来てもらって、講師ということでお願いをしています。そういうところからも、そういう里山づくりしている活動の人たちがつながっていくようなきっかけ作りというのをしていったらいいと思います。頑張っているところをお互い見に行くとかいうようなことも、今後アドバイザーつながりの中でやっていったら良いのかなと思います。

門上幸子（里山アドバイザー）：直接は関係ないのですが、平松に行っていて、そういうボランティアの人たちがたくさん来られていて、この１月の時に。その時には昔、兵庫森のクラブという森林ボランティア団体で私も活動してた時のことを思い出して、こうやってボランティアに行ったなっていう。あの時、すごく活動が右上がりやったのは、やっぱり行政主導で始まってたんですよね。一般の人は県がやっているから、市がやっているからという安心感があった時代。まだ 20 年くらいですかね。平松しか今は特に行ってないですけども、継続して、平松の方たちもずっと長く行ってるから、伊藤さん以外の方とも山登りながら歩いたり、できるだけいろんな人と話するようにしてるんですけれども、そうするとやっぱり伊藤さんと考えが全く同じじゃないという方もおられて、一緒にやってるけれども自分はこういうふうなことをやりたいとか、こう考えているとか。女性も新たに入られて、男性の 10 人前あるんですよといって、一人おられるだけで男の方頑張るんですよっていうような話をして、女性は、自分はじっとしてるより一人なんで、こういうところに月１回でも来させてもらえたらとおっしゃっていました。そういうのを聞いて、森林ボランティアの時のことを思い出したんですけども、私も里山アドバイザーといわれてますけど、どんなことをしてきたんかなとか思うんです。コミュニケーションっていうんですか、橋渡しっていうか。伊藤さんとは、よく電話で話します。自分が何ができるのか、もう自立しているので「これしたらどうですか」「あれしたらどうですか」っていうところがないんですけれども、次の一手っていうのを考えているんですね。いつもあの伊藤さんは次の一手、次の一手というふうに。森林多面的をもらってるせいもあるんですけれども、それでずっと聞いていたのは他団体との交流。自分ところのフィールドを使ってほしいという商売的なところがありますよね。すごくね。コミュニティビジネスっていうか、とにかく自分のこのフィールドを使ってほしいというのと自分ところの平松愛好会の仕事がほしいっていう。そういうところで私のような者がいなかったら、監視というのは相応

しくないのですが、コーディネートというのか、ちょっと間に入って見るもの、私のような中間的なものが行ってて紹介してくださるんですよね。行政の代行みたいに思ってるみたいなんですね、県か市か町か分からないけど、橋渡しのような人が来ているというところで、少し安心してもらえるというか、いろんなコミュニケーションができるというところがアドバイザーの良いとこなのかなとか思ったりしました。今までずっと話を聞いていて思うんですけれども、平松も一番最初はそうだったんです。モデル地区になった時に 20 万円を自分ところがもらえると思ったみたいなんですね。でも助成金もらうのに慣れてるもので、それで深く考えずに 20 万円もらえるんやったらモデル地区に手を挙げますみたいな。それがもらえないって分かって、それはあんたがもらうんかみたいになってしまったんです。一体何してくれるんやなという発想でした。長い時間かけてコミュニケーションする中で「こんなことやりたいや、あんなことをやりたいや」っていうところで必要とされる他団体、交流するようなところを紹介してほしいということで、いくつか紹介しました。たとえば山﨑の森林大学の研修生の受け入れはどうですかとか、具体的にいくつか紹介して、このたび兵庫どんぐり千年の森を作る会との交流に繋がったんです。やっぱり長くそこの地域と月一回でも付き合っていく、特に私は阪神間から来ていますので、やっぱりそういう信頼関係を作っていくっていうことも大事なんだなというのを感じたところです。アドバイザーのこれからですけど、そういった中間的な役割、橋渡しのような役割。たとえば自分に力が無かったら、それこそ山崎さんに来ていただきます、内田さんに来ていただきます、維田さんに来ていただきますみたいに、そういったアドバイザーの中でも交換し合って、もっと強くしていったらいいかなと。そのためにはアドバイザー同士も交流したり、どんなことを助けてもらえるのかという、そういうリストなんかを作るのもいいかと思います。

司会（門上）：時間になりました。かなり意見が出ましたので取りまとめは、また協会の方でしてもらいます。モデル地区の存在意義も違う面から出てくるのかなということも思いました。山崎さんや内田さんから出たように求めている人は結構あると。いろんなニーズ、特にコロナの中で。それが団体なのか個人なのか、ちょっと微妙ですけども、そういうニーズはあるのだから、それに応えるべきだという話もあります。課長が最初に言われた関係人口を増やしていくということでは重要な話なので、僕も知る限りではいくつか話を聞くんだけども、いざ実際にどこどこ行って、どこどこっていう、そういう紹介がなかなかしにくいですね。個人レベルでの紹介しかできない。でも実際にはもっとたくさんあるは

ずだし、そういう意味でプラットフォームがいいのか、そういう窓口ですよね。窓口で情報をしっかり丹波地域の情報、里山もしくは森遊びの関係の情報は、ここへ行けば、とりあえずつないでくれると、そういう窓口は絶対必要ですよねという感じを今日皆さんのお話を聞いて思いました。こういうアドバイザー、今のコミュニケーションの話もそうですけども、情報をいかに一般の人に広げるというか、つないでいくか。それは地元もそうだし、外側の人もそうなので、その辺を来年度以降の課題にしなければいけないと思いました。

今日は、お忙しいところを集まっていただきまして、ありがとうございました。また報告の方はさせていただきます。よろしくお願いします。

令和３年度丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務　報告書

令和４年３月 25 日

公益財団法人 兵庫丹波の森協会　丹波の森研究所